
僕と親友と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕と親友と召喚獣

【Zコード】

Z4939V

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

ここ文月学園は、試験召喚システムを使った試験校である。ここで、バカっぽいことをする主人公土方亮介の物語。

ナラティブ題（前書き）

いつも作者です。ノリでかきました。一作目です。できるだけ同時進行します。

第0問

僕、土方亮介、高校一年生。高校生活一度目の春。彼女がない。正直募集中。

こんなこと言つているけどそんな暇がない。

今日は、振り分け試験の日。

友達（男）においていかれ、ひとりで道ばたRUNNING NOW間にあえーと心の中で叫んでいた。

校門前にてつんじゃなくて鉄人がいた。

鉄「いそがんか！土方。」

鉄人 趣味がトライアスロン、冬でも暑苦しい教師だ。

振り分け試験中。

振り分け試験終了。

結果がくるまで楽しもう春休み。

予習問題（後書き）

次は、オリキャラ紹介です。どうぞよろしくお願いします。

キャラ紹介（前書き）

男三人、女二人。現在はこれですが、追加するかもしれません

キャラ紹介

キャラ紹介

土方亮介

身長 173cm
体重 60kg

学力 Cクラス

クラス C

髪色 黒

髪型 ウエーブがかかつている。

目 黒

好物 マヨネーズ

嫌いなもの とうもろこし

性格 優しい・鈍感

顔 松純的な顔

召喚獣 信長の鎧

武器 日本刀

腕輪 武器換え

火縄銃 召喚・発射点消費

大砲 召喚・発射点消費

貧乳好きのセクハラ好き

近藤悦司

学力	aクラス	目	赤	髪型	明久みみたいなやつ	髪色	金髪	体型	雄一ぐらい	身長	雄一ぐらい
										体重	雄一ぐらい
										髪型	髪色

クラス

c

外見 明久と雄二の中間と金髪

召喚獣 仮面ライダーみたいな

武器 なし

腕輪 フォームチェンジ

特撮才タク

沖田漱士郎

身長 明久ぐらい

体重 明久ぐらい

目 黒

髪型

明久のくせつ毛みたいな

顔 学園一、二を争うイケメン

性格 優しい（主人公以上）学力 Aクラス

クラス A

召喚獣 シルバー ルー式

武器

火 刀銀

腕輪

鬼神切り

30点消費 100ダメージ

学年次席並の頭脳。モン んが大得意。

キャラ紹介（後書き）

次はヒロインの紹介です。

キャラ紹介につ（前書き）

次はヒロイン。近藤・土方と結ばれる（予定）

キャラ紹介につ

キャラ紹介につ

山崎百合

身長 土方より少しちいさい。
体重 公開できません
胸 島田、優子クラス

目 緑
髪色 緑
髪型 ツインテール

顔 初音ミクの髪が少し短い感じ

性格 ツンデレ・やさしい?

召喚獣 初音ミクの服装

武器? ボイス(ラーゼフォンみたいな)
腕輪 戦意を喪失させる(敵味方関係なし)

主人公とはおさなじみで両親公認
嫉妬で明久みみたいな感じになる。

クラス C

C

桂麻里

身長 土方ぐらい
体重 公開できません

学力 クラス

クラス

目 黒

髪色 茶髪

髪型 ストレート

胸 霧島より少し大きい
顔 とにかく美人
性格 ヤンデレ
召喚獣 処刑人みたいな格好
武器 スタンガンからギロチンまでいろいろ。（リアルでも）
腕輪 敵を縛る（一人ぼ一瞬で）
両親公認の近藤の婚約者。
近藤も麻里のことが好きだが素直になれない。（そのせいで…）この後は後に。

キャラ紹介につ（後書き）

名字を銀魂？にしました。ノリで。次回第一話
メガネとヒステリックとツンデレ

第一問 メガネとヒステリックとシンドrome（前書き）

本編スタート

第一問 メガネとヒステリックシンデレ

第一問めがねとヒステリックシンデレ

「おはよう」「やあ」ます。鉄村先生。」

「おはよう」「やあ」ます西人先生。」

「おはよう」「やあ」ます。西村先生。」

ボカツ × 2

「「痛い」! なにするんですか。俺たちはなにもしてないじゃないですか。」」

「西村先生と呼べ! あとこれを受け取れ。」

「どーもです。」

「ありがと」「やあ」ます。」「せんきゅ。」

「にしても、沖田と近藤、お前たちどうしたんだ。お前らならAクラスも楽なはずだ。」

「調子がでなくつて。」

「遅刻しないように早めに教室にいくよ」。

「はい。」

「イヒツサー」

士方 side

「だれかいるかな?」

「百合あたりならいるんじゃない?」

「百合? まさつかー、あのバカでペッタンコな百合が……」

「どうしたの?」

「逃げるぞ。悦司。そして、亮介をよこなう。」

「待つてよ!」

後ろからさつきが

「これから10秒クッキングをスタートします。」

「ぎこああああー」

こうして俺は10秒でレッグボーンクラッシュを受けて、保険室へ。

近藤 side

「結構一般的だな。」

「悦司、後ろ向いて、いらっしゃる？」

といわれふりかえると

第一問 メガネとヒステリックヒントン（後書き）

レッグボーンクラッシュは足の骨を砕く勢いで正拳突きをする」と
です。代表だし忘れました。次、登場予定。

次回遅刻と代表とヤンデレ

第一問 メガネとスタンガノとヤノトーン（前書き）

それで、IJの後の展開は分かること思いますが、気にせずIJ。

第二問 メガネとスタンガンとヤンデレ

第二問メガネとスタンガンとヤンデレ

悦司 side

いわれてふりむくと、スタンガンを構えた麻里がいた。

「どうした？ 麻里？ そんな物騒な物持つて？」

「今朝、一緒に登校してくれなかつた。だから、そのう・め・あ・わ・せ 」

漱士郎 side

バチツバチバチバチ

「ぐういやあああー」 悅司の断末魔の叫びをBGMに小山さん入場。

「づらさん、此処はCクラスよ。」

「でも、悦司が一緒に登校してくれなかつた。」

「もうすぐHRはじまるわよ。」

「わかつた。悦司を保険室まで運んでくる。」

「小山さんてすごいな。彼氏はひどいけど。」

「恭一とならわかったわよ。」

「なぜ、人の心がわかるんだろ？ すごいな。」

「誓めてくれてありがとう。名前は知つてないみたいだけど。君は漱士郎君だよね？」

「なんで知つてるの、と聞きたがだいたいわかつた。」

「なんで、学年次席候補がこのクラスに？」

「友達に頼まれたからだよ。」

「あなたとは上手くいけそうなきがするわ。じゃあね。」と言つて席に向かつてあるきだして いた。

さて、二人（亮介と悦司大丈夫だろうかな？）

第一問 メガネとスタンガンとヤノト（後書き）

漱土郎は小山と結ばせようとおもいます。

次回自己紹介と代表とけが人二人

第三問　自己紹介と代表とけが人一人（前書き）

明日は投稿できません。 すみません。

第三問 自己紹介と代表とけが人一人

「皆さん席についてください。HRを始めます。私はCクラス担任または、英語教師の安藤です。よろしくお願ひします。代表の小山さんでてきてください。」

「代表の小山です。代表でも好きなようによんでください。」

土方 side

「すみませんおくれちゃいました」「

早く席についてください。」

「はーい」

「では廊下側から自己紹介をおねがいします。

榎田克彦…」

自己紹介中 じばりくお待ちください。

「次はぼくだね。」

「僕は、土方亮介。よろしく。」

「貧乳、シンデレラ好きは言わなくいいのか?」

「待つてよ、漱士郎。皆に僕の裏趣味がばれちゃうじゃないか。」

「聞いた、今の。土方君趣味わるいね。」

「でも、好きなんだろ?」

「大好き、いや、愛してる。つて悦司ー僕もうこれじゃ変態みたいじゃないか。」

「みたいじゃなくてほんものだろ?」

「一年間よろしくおねがいします。」

「次は俺だな。俺は近藤悦司。一年間よろしくな。」

「次はおれか。おれは沖田漱士郎。一年間よろしく。」

「次は私ね。私は山崎百合。よろしくね(キラッ)」

「百合たん、サイバー」

「百合たん、サイバー」

第三問　自己紹介と代表とけが人一人（後書き）

主人公かわいそうだ。（笑）

それはともかく

次回 メガネと自己紹介2と代表様

第4問　自己紹介と代表とお話（前書き）

マクロスネタを使わせてもらいました。たまにいろんな感じになると
思います。

第4問　自己紹介2と代表とお話

第4問

百合教信者急增中

彼女は渡さない。俺のバー・レムの一員にする。この意志で！

「先ほど話したように名前の呼び方は気はしません まだ 赤」とは別れていますので勘違いをしないように。」「でもさ、別れたなら、どうして下の名前で呼んでいるだろ?」「確かに。」

一 さすが、セケハテ学生伊達じやない。

「性話やめていたいの麻里さん呪ふよ」と異端醫問術の呪を呼ぶ。

「すみませんでした。悦同様。」

「今だ！」

「二万春 逆藤春清が同じで二さい
「ナニミサ。」うう、説明書の字母で

るそつなので席を外させてよろしいですか?

「いいですが、なるべく早く戻つてくねよ!」。

アイ・インダクト発動

早く逝け悦司。さもなくば…分かつたいくからやめてくれ
廊下

卷之三

「あ、ああ。まあな。」

「うれしい」

「今日、一緒に寝な

悦司 Side

早く逝け悦司。さもなくば…分かつたいくからやめてくれ

廊下

24

「それは、おかしいだろ！」

教室

「先生、僕の言つたとおりおもじりこでしちゃうっ！」

第4問　自己紹介と代表とお話（後輩や）

ベタな会話。一人つきひとつと思つてないとできない会話ですね。

次回 素直じゃない男とヤンケレと盗聴

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。（前書き）

祝五話記念一人キャラ追加したいと思います。十話まで受けます。
感想も宜しくお願ひします。

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。

第五問

「先生、これは西村鉄人と、異端審問会どじぢうがいいですか？」

「西村先生に送りましょう。渡していくので皆さん面白がるよ！」。

「

「亮君、」

「何かな、百合？」

「私つて亮君の好み？」

「ピストライク！ゲームセットぐらー。」

「どのくらいかわからないんだけど？」

「メイド服ぐらー。」

「わからない。」

「簡単に言えば、百合が大好きってこと！すうにまうつたああ！ついノリに乗つてこくつてしまつたああああ！」

「亮君、それほんと？」

(上田遣い)

「じつはね私…」

「「土方をころせえええいえいえー」」

「くそつたれの鼻くそに紛れてでてきた鼻毛以下のマイズインクオ
どもぐうあー！僕の青春と百合の写真（メイド服版）と心暖まるシ
ーンをかえしやぐうあるうええー！」

「憎しみは不可能も可能にする。喰らえ。俺のこの手が光つてうな
る！おまえ等倒し、百合と共に未来を築けと輝き叫ぶううー愛と
怒りと悲しみのマニアング・ソードブレイカーー！」

「ぐはーーー」×20？

第5問 カップルと素直じゃない男と一途な女。（後書き）

いろいろありましたね。シャイ ング フィ ガー ソードとか。主人公の発音すごいですよね。自分でもびっくりです。

第六問 天才と代表と自叙時間（前書き）

今回は沖田君と小山さんのお話です。

第六問 天才と代表と自習時間。

第六問

沖田 Side

一
ねえねえ
沖田春
「

なにかな？代表

優香でしわよ

用件は?」

勉強を教えてくれなしかしら？」

別にいいけど俺で

あなたたかこよ

「優香さん、あまりへたな発言はあとでくれませんか?」一呼び捨

「母田村久」の「母田」の読み方

卷之二

卷之三

卷之三

11

シーラーの本

תְּלִימָדָה
בְּשִׁירָה

作者異一が済田春の圖書室の圖を示せん。

がり田林先生を叫んで立つたが、

作表 女三が男畜男畜といふるてす

行ひて里田に別三に詔を下りてなし 貫井田を以て三井に

レ交互通はからへ

作表一 田勞力若二貢勞一之幾何

三分が一九四〇年五月貿易統計より

田業資業田業資業田業田業資業
「

「遙かわがよへ聞かなむにあひて並ぶのは、」

第六問 天才と代表と自習時間（後書き）

いい雰囲気ブチ壊してすみません。下ネタいり男女いれてしまいます。見たくない方は一話とばしておねがいします。理由はちゅうとはんぱだから。次からは土方君も入ります。
次回ピンクな空気とかップルと男女

第七回 ペンクな空氣とカップルと男女。（前書き）

キャラがとうくに崩壊しています。新キャラが出るかもしれません

第七問 ピンクな空氣とカップルと男女。

第七問

代表と土方と沖田がノリで男女してるとき、

no side

「すみませーん。遅れちゃいました」

「貴方は？」

「転入生の神楽香奈です。よろしく！」

「なんでお前が此処にいるんだ？」

「転入してきたんだよ。亮君に会いたくてたまらなかつたんだから！」

香奈 side

「とりあえず、みんな、席について。転入生がきたから。」

「私は、土方香奈です。旧姓は、神楽です。土方君の妻です。夫と一緒に宜しくおねがいします。」

「「「土方を殺せええー」」」

「亮君の敵は私の敵。アウエイクン！崩天牙戟」

と香奈が叫ぶと呂布 先が持つてそうな武器がでてくる。

「旋風、だーい裂傷！」

呂布ト一 ギス？みたいな技を使い男子生徒二十人ぐらいの山ができました。

「ウルトラ上手に殺れました！」（モンハンの肉焼きより。）

「香奈落ち着け！さつきあいつ等逝つたばっかりだつたんだよ。」

「それはごめんなさい。」

少し顔がくらくなる。そして、

「なら、逝つちまいな！」（アリー・アル・サー・ショス様の名台詞。）

「香奈が暴走してしまった」

第七問 ピンクな空氣とカップルと男女。（後書き）

新キャラ登場。 詳細は後ほど。 。

次回題 と暴走と処刑

第八問　呪 と暴走と処刑。（前書き）

なんか、いろいろなアニメから台詞をとりせていただいています。

第八問 四 と暴走と処刑。

第八問

土方 side

みなさんこんにちは、土方です。知り合いが暴走してます。マジでやばいです。

ほんとに「どうが、ギッショーン！」やばいです。止めにいってきます。

「やめろ、香奈ー。」

「亮君、無事だつたんだ。よかつたー。」

といつて可愛らしい笑顔をみせる。このままでいたいなーじゃなくて、

「香奈、あれじゃクラスメイトの顔がお茶の間に『せないじやないか！』

「『めんなさい』。でも、まつ、いつか。」

「よくなじよ。」

「皆さん席についてください。」

待てい、どういうタイミングだよこんちきしょい。

「土方さん、自己紹介はしましたか？」

「はい！」

「待てい、先生、香奈の名前は神楽だ！勝手に入籍させるんじやない。」

「それでは、設備の確認をします。何か不備がある人。」

そこで無視はひどくないか？

「亮くーん？ 向こうで〇 H A N A S H しない？」

やばい、この人やれる。

当たらなければどうとこうとはないだとよけられないか？

「オオッド、ハーンド、ブレーク、デルター！」

「ぐわああああああーー。」

「土方君、静かにしてください。」

「はあ、死ぬかと思った！っておい亮介でめえ、両手に花か。面白いからいつか？」

第八問　呂 と暴走と処刑。（後書き）

新ヒロインの覚醒版がすごい！（書いた自分でも思う）
感想、お待ちしています。

第9問 一途な人とシンテレと両手に花。（前書き）

ほんと、両手に花など、現実では、見れませんよね。

第9問スタート

第9問 一途な人とシンチレと両手に花。

第9問

土方 side

「そつか。香奈は知らなかつたね。百合自己紹介したら。」

「私は山崎百合。亮君の恋人です。よろしく。」

あれ、おかしい気がする。

「恋人？友達じやないの？」「告白したんだから、責任とりなさいよ。」

「なんどうわつてえええ。僕でいいの？僕は、メガネだよ？」

「優しいからいいの。それに私だつて好きなんだし。」

「香奈、これドッキリだよね。百合がこんなに優し」

「アウエイクン！スタンガン」

といつてスタンガンを取り出す。だすのは召喚獣だけでいい気がする。人のこと言えないけど

「ライトニングブلاストー」

「ぐるほおおおお」

僕は意識を手放した。

香奈 side

「アウエイクン！バスター・ソード（FFF7）。」

剣を構える。

「アウエイクン！鬼神斬破刀^{モンハン}」

亮君を守るために私は戦う。切りかかろうとしたとき、亮君が起き二人の刃に斬られる「ぐうふうああああ！刃物二つの鋭い痛みと雷の精神的攻撃がとても痛い――！」

「「ごめんね。亮君」」

「亮介、助けてくれ――！」

「待つてて、たぶん逝くから」

「たぶんってなんだよ。というより助けるよ――！」

第9問 一途な人とシン・テレと両手に花。（後書き）

亮介君達は残酷ゆえに御見せできません。はたして、三人の運命とは？

次回 漱土郎と代表と代表の話

第10問 漱土郎と代表と代表の話。（前書き）

新キャラだす予定です。男ですが、あと一人ぐらいだしたあと紹介します。

第10問 漱土郎と代表と代表の話。

第十問

漱土郎 side

「じゃ、いつてくるね。」

「いつてらっしゃい。逝つてこないでね。」

「覚悟しておきなさい。」

「ある程度までは言つ」と聞きますので。どつか。」

数分後

「みんな、私は遅くても一週間ないにBクラスと戦争しようともつてるの。」

「すみませーん。遅れちゃいました。」

「早く座りなさい、屑！」

「初対面の人を罵倒するなんて、さすが漱土郎がすきそつなだけあるな。名前は高杉優樹。異名はマッドサイエンティスト、墮天使、死神などいろいろある。」

「「「優樹、どうしたんだい？」」」

「呼び出しどいてそれはないだろ。転入はついでだが。」

「亮介、性転換薬とだ。」

「ありがとう、優樹。やつぱり類は友を本当によぶんだね。」

「まで、今のはおかしいだり。そこのツインテール。亮介の本当の趣味はエロイ感じの奴だからな。そんなんじゃ、香奈には勝てない。受け取れ。発育薬だ。親の許可を得て使つたほうがいいぞ。」

「なんどよ」

「暴走するからだ。」

「どんな風に？」

「それは楽しみにしておけ。」

「」のマッドサイエンティストぐうわあああ

「狙い撃つぜ！」

「優樹、どこからそんなものを？」
愉快？な人登場

第10問 漱土郎と代表と代表の話。（後書き）

高杉君登場。名前でありますといふ氣がすると思いますがよろしくお願ひします。

次回 秀吉と土方とマダガサイヒンライスト

第1-1問 秀吉と土方とマッチドサイエンティスト。（前書き）

秀吉は性転換するでしょ？ つか。 スタート

第11問 秀吉と土方とマッチドサイントライスト。

第11問

漱土郎 side

何か亮介に撃ち込まれたみたいだ。いたくないけど、眠い。

「実験成功。悦司、自白剤と変身ベルト。」

なんで自白剤？

「俺に何かないの優樹？」

「ああ、狩人の腕輪だろ、ちゃんとある」

「さんきゅ、優樹。」

「作つてほしいものがあつたら言つてくれ。できればつくる。」

「亮介に性転換薬を渡した理由でも教えておくか。これは、亮介と仲がいい奴のみ知つていてる。簡単に言えば、お互い、愛してたんだ。しかし、壁があつたんだ。性別という壁が。それを克服するためのためだ。」

「起きろ、亮介。起きないなら、狙い撃つ」

「覚醒弾という弾だ。先生に頼まれたんだ。」

「僕は、一体？ そうだ、秀吉に会いに行かなくけや。行こいつ優樹。」

「ああ。理由は説明されておいた。」

「だが、香奈達はどうなるんだ？」

「行こいつ。」

「ちょっとぐり行つてくる。」

Fクラス

「秀吉いるかな？」

「久しぶりじゃのう。といひで、何かよつかのう？」

「実は、秀吉にこれを飲んで欲しいんだ。」

「これは何じや？」

「性転換薬だよ。優樹が作った。僕たちの愛のために。そして、僕と付き合つてくれないかな？」

第11問 秀吉と土方とマッチドサイエンティスト。（後書き）

秀吉の決断とは。

次回 性転換と恋人と嫉妬

第1-2問 性転換と秀吉と姫姫。（前書き）

できれば、五話間隔でキャラクターを増やしたり繋げています。

第12問 性転換と秀吉と嫉妬。

第12問

土方 side

「亮介、今なんと書つたのかの？」

「それを飲めば女になれる。」

「「「なんだつとうええええ」」

「今も愛してくれているなら付き合つてくれー」

「副作用は何もないのじゃな？」

「ああ、実験済みだ。」

「実験台にしたの、誰なの優樹？」

「落ちてる食パン食べようとした奴にパンにまぜながら、投げた。」

「きやああああ！」

悲鳴が聞こえる。まさか、

「女になつちやつとうああああああ！」

「優樹、ぼくに何をした」「秀吉の愛のために実験台になつてもらつた。おい、みんな、彼奴は元明久だ。今から女子だ。付き合いたい奴は付き合え！」

「「「イエス、ニア、マジエスティー！」」「「ロードギアスの皇帝に対する挨拶。」

「吉井さんは僕がいただく！」

「リボンズ・アルマーク生きて……、じゃなくて、学年次席なぜ貴様が此処にいる！」

「吉井さんいるところに僕あつた。」

「ところが、ギッショーン！」「ぐわああああああ「

「ノバスターソードはよく切れるなー」

久保君、ドンマイ。

「第一回吉井争奪セーン」

「「「こいつえええええ」」」なんてほこだっこいつ等。

第1-2問 性転換と秀吉と嫉妬。（後書き）

明久まで女に。

次回 秀吉と土方とラブリーテート

第1-3問 秀吉ヒトガヒカラハトート。 (前書き)

よく「ト」を間違つてゐると思ひます。すみません。

第13問 秀吉と土方とラブラブパート。

第13問

土方 side

「早く、おわらいいかな？」

「終わるわけないだろ。それより、亮介責任取れ。」

「何が、悦司？」

「お前のせいでおれは、麻里と同棲するはめになつた。」

「みんな、よく聞いてくれ、近藤悦司が麻里さんと同棲してゐる」と

を自白したぞ。」

「近藤を殺すうえいー！」

「おおー」×ほとんどのメンバー + 船越先生

「僕は秀吉とどこか、遊び行こつ。」

FFクラス

「何があつたんだ？」

「えつとね、亮君。」

「秀吉どつしたの？ 口調がいつもと違つよ。」

「私は今女だから。今の私、嫌いなの？」

「大好きさー！」

「じゃつ行こ」

市街

「どこいく？ 秀吉？」

「映画を見に行こ。」

「ああ。行こつ。」

映画館につくとありえない光景が見られた。

第1-3問 秀吉と土方とリラフラーント。 (後書き)

想像がつくと思いますが、お楽しみに。

次回 僕と映画と黙字録

第1-4問　映画ヒートと黙時録。（前書き）

次回新キャラ登場の予定。

第14問 映画とテーーと黙時録。

第14問

土方 side

二人の男性が一人の女性に手錠を付けられひっぱられていた。

「悦司（雄二）何が見たい？」

「俺の願いは叶うのか？叶うなら自由をくれ！」

「地獄の黙時録を一回見る。」

「お前とは並べつけそなきがするぜ。それにしても、一回も見なくていいだろ。しかも長いな、オイ！」

「クラスが違うから、その分のつ・め・あ・わ・せ」

「土方、秀吉、助けてくれ！」

「逃がさない。」

「ぐつほあああああああ」

ありや、殴られた鈍い痛みとスタンガンの新感覚ーと僕ならいつたはずだ。

「秀吉、何見たい？」

「亮君と一緒にいれるなら、何でもいい。」

「これでいいかな？」

選んだのは、愛は無限に、とこり映画にした。理由？理由は、参考になりそうなきがするから。

「早く行こ、秀吉。」

「うん」

「映画が始まつた」

しばらくお待ちください。

「泣けたね、秀吉」

「うん。ちょっとまつてくれない。お母さんと電話するから。」

電話中

「亮君、泊めてくれない？」

なんですか
一

第1-4問 映画ヒートと黙時録。（後書き）

次に新キャラがでる気配がありません。

次回 秀吉と亮介と同棲

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。（前書き）

次の日（小説で）になつたら新キャラ行けりつと思ひます。

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。

第15問 土方 side

落ち着け。状況を振り返ろう。

- 1、デートの帰り
- 2、秀吉が家に電話
- 3、泊まつていいか聞かれる。
- 4、同じ空間で、夜を過ごす
- 5、次の日、処刑執行

とても危険だ。

「はやくいこ、亮君。」

「待つてくれないか。明日になつたら死ぬかもしれない。」

「私が嫌いなの？」（涙目 + 上田遣い + 密着）

ピーンチ、ピーンチ。何がピンチかってもちろん、理性と命。

「たぶん、いいが、どこで寝るんだ？」

「何言つてるの？もちろん、同じベットでだよ。」

「悪いが、部屋を片づけさせてくれないか？」

「Hな本があるから？大丈夫。怒らないよ。」

「本当に？」

「燃やすだけで許してあげる」（キラッ）

絶対許してないと思つ。

「許してなかつたら、即病院送りだよ。」

すみませんしたー。調子こいてました！前言撤回。かなり許されてる。

「分かつた。だが、服はどうする？」

「亮君の奴を使うから、問題ない。」

話していたら着いてしまった。

第15問 秀吉と亮介と男女同じ屋根の下。（後書き）

いえにつきました。中がどうなってるか、自分も考えていません。

次回 土方家とHな本と秀吉

第16問 土方家と工な本と秀吉。（前書き）

すみません。結構誤字脱字がありますがごめんなさい。
8月13日せ、お盆関係でできませんでした。

第16問 土方家と工な本と秀吉。

第16問 土方 side

ああ、かなえ、鈴木、岩本、その他いろいろ（工口本の名前）「めんなさい。君たちを守れなくて、君たちの犠牲は無駄にしない（はず）。

「どうしたの、亮君？」

「脳内でお別れ会をしてたんだよ。」

「すういっとうああああ！なんて悲しいんだ。僕は、僕は、ぼくは、生きてゆけるのかなー？」

「とりあえず、あがつてよ。」

「ありがと」一ノ口

「これどうあよ。（これだよ）この天使のような微笑み、サイゴー！」

「なにする？」

「家庭について話し合つ。」

「会話が飛びすぎだ！」

「え？」

「え？ じゃなによ。野球拳でもする？」

「すういいまつとうあああああ！いつも泊まるの男子だからノリでいつてすういいまつとうあああああ！」

「悦司とは、どんな関係なの？ 私じゃ不満なの？」

「悦司とは悪友で秀吉はとても大事だ。」

「どのくらー？」

「平和くらー。」

「ありがと。ところで一緒に風呂に入らない？」

「ぶしゅああああああああああ

大量出血で病院送りになる気がする。

第16問 土方家とエな本と秀吉。（後書き）

僕と翼と召還獣、好評？連載中。よろしくお願ひします。感想、アンケートもお待ちしております。

それはともかく、次回 亮介と秀吉とのベッド

第17問 亮介と秀吉とベッド。（前書き）

17問スタート！

第17問 売介と秀吉とベッド。

第17問

秀吉 side

しまつたのじゃ。一割[冗談だつたのに。

「とりあえず、亮君の体が冷えないように暖めよ。」

服を脱いで亮君にベッドの中で密着すれば問題ないしね。
数十分後

土方 side

体がとても暖かいな。まるで、秀吉の体と密着してゐるような。いや、
そんなことは無い。あつても膝枕ぐらいだ。どしどもとても嬉し
いからいいけど。とりあえず目を開けよ。

開けると、下着姿の秀吉が密着していた。

「ヘルプミー！マイエンジョル！」

「襲えばいいんじゃない？」

天使の皮をかぶつた悪魔め！

秀吉が目を覚ました。

「いつの間に私が寝てたんだ。あつ、亮君おはよう。」

「おはようじころじやないよ。まだ夜だし、ところより、なんでそ
んな格好してゐるの？風呂入つてきなよ。」

「一緒に？」

「おまえがいいならいいが。」

「本当！やつたー」

無邪気に喜んでる。これって犯罪じやないよね？

「じゃ、先にいってて。準備してくるから。」

もし、あそこで断つたら、プツツみみたいに骨が折れるだろ？。
なんか死にそうで怖い。肉体的にも、精神的にも。

第17問 亮介と秀吉とベッド。（後書き）

ノリで書きましたが、これより先を書いていいか分かりません。
のでアンケートを取らうと思います。はいかいいえでOKです。
月15日11時、つまり一日待ちます。それまで更新しません。
ご理解ください。感想待つてます。

8 な

次回 亮介と秀吉と風呂

第18問 亮介と秀吉と風呂。（前書き）

ちょっと危ない話ですが御理解を所望します。

第18問 亮介と秀吉と風呂

第18問

土方 side

高校生男女カップルが一緒に風呂。これってあり? ないに決まっている。まついつか。

「亮君、一緒に入るんじゃないの?」

「待つて、すぐ行く。」

あっちはやる気まんまんみたいだな。性犯罪者扱い受けそうだ。

「秀吉、お待たせ。」

ぶふあああああああ!

女子ってタオル巻いてはいるんじゃないの?

「亮君の体洗つてあげる。」

「ありがと。」

むにゅつ

あれ、何の音だらう?わかったー。

「待つて秀吉タオルを使わないでどうやって洗う気なんだ?」

「私の体を使って。」

入浴中（これより先を書くと大変な）とになりそつなので省略します。）

「秀吉、寝よつか。」

「一緒にベットで。」

「やつぱりそつなるの?」

僕の理性が持ちますよ!」

「おやすみ。」

とつあえず寝た。襲う行為をしないためにも。

第18問 亮介と秀吉と風呂。（後書き）

とても危なかつた気がします。15禁が18禁になるとこりでした。

次回 亮介と秀吉と朝

第19問 亮介と秀吉と朝。（前書き）

朝物語です。

第19問 亮介と秀吉と朝。

第19問

土方 side

朝食の準備をしないと。朝食準備中

「よし秀吉、起きないと。学校だよ。」

「さやつ、亮君たら何処さわってるの。そこはダメー。」

「どんな夢見てるんだろう? なんかリアルになりそうな。秀吉、お

はよう。」

「おはよう、亮君。」

「朝食準備してるから、準備が終わったら来てよ。」

「分かったわ。」

リビング

「すごいな、性転換薬が話題になつてる。」

「明久も女子だよね?」

「たぶん、明子になると思ひナビ、」

「優樹に感謝しないとね。」

しばらく続く

「そろそろ行こうよ。亮君。」

「うん、行こう。」

通学路

「土方をくうおうすうつえーー!」

「いくよ、秀吉。あと失礼するよ。」

秀吉をお姫様だつこ状態にして走る。
無事学校に着けました。

第19問 亮介と秀吉と朝。（後書き）

次回学校でのお話。
次回転校生と戦争と代表

第20問 亮介と秀吉と鉄人。（前書き）

西村先生のお話、スタート

第20問 亮介と秀吉と鉄人。

第二十問

土方 side

「チョリッスー！西村先生。」

「おはようと言いたいところだが、朝何が起きた？俺の予想ではお前が木下と一緒に風呂に入つたり、一緒に寝たり、いちゃつきながら登校してたのをFクラスのバカに襲われて逃げてきたあたりか？」

「なんでそれを？」

「予想のつもりだつたが本当だつたとはな。授業に支障がでなければ俺は何も言わない。」

「貴方は秀吉の親ですか！」

「違うよ、僕はつっこんでないよ。」

「おはよつございます、螺群専制。」

「高杉、間違つてるぞ。」

「先生、いいじやないです。」

「よくないぞ、というより邪魔をするなああ！」

どうしてだろう機動士ガダメスターダトメモリーのアナルガー少佐の声が聞こえる。

「やはり、あんたがソモンの悪夢か。実在したとはな。」

「ええ！あの人、逝つちまいな、ガンムのノリで自滅したはずだけど。」

「お前等、後で職員室に来い。」

「気持ちだけで十分です。」

「否、断じて否！」

「わかつたから、アトミックズーカ並の痛い思いしたくなかったら早く教室に避け！」

「漢字が違うよ！」「

とりあえず教室に行つた。

第20問 亮介と秀吉と鉄人。（後書き）

ガトー少佐登場。あれって思う人多いと思う方がいると思いますが眉毛とかは色を除けば似てると思います。あのノイエ・ールの特攻の時、脱出したとでも御考えください。後書きが異常に長かったですが、次回予告

次回転校生と代表と挑発

第21問 転校生と代表と挑発。（前書き）

新キャラ登場。宣伝ですが僕と翼と召還獣もよろしくお願いします。

第21問 転校生と代表と挑発

第21問
土方 side

秀吉を送り届けた後、自分の机で考えてた。ジオン再興なんてリアルな話だつたんだ。

「みなさん、HRを始める前に転入生を紹介します。坂田君来てください。」

「坂田和希です。よろしくお願ひします。ちなみに土方亮介君は木下秀吉という人と一緒に風呂に入つたりしてたそうです。」

「「「土方を殺すウエエエ！」」

「だまりなさい！この堆肥を全身につけた豚ども！」

「おい、秀吉。何してるんだ？」

「亮君、えつとねこクラスを挑発させてAクラスと試合戦争を起させようとしたの。」

「えらいぞ、秀吉。」

「亮君のためなら国の法律だつてかえてみせるよ。」

「墮天使様、僕の天使に何を吹き込んだ？」

「確かに、お前が子供を欲しがつてるとか、エロ本の隠し場所を教えたりしただけだが？」

「だけですまないと思つよ。というより場所を言つてみなよ。」

「ベッドの下にある隠し扉を引き出しの一番下の一重底の中に鍵があり、下からボールペンの芯か何かで下からあけないとこの町全体が燃える程のガソリンの上に鍵があり、隠し扉を開け、その先の12桁のパスワードを入力したのちに、あいつの部屋の合い鍵でその先の部屋にエロ本が星の数だけある」

第21問 転校生と代表と挑発。（後書き）

デスノートのネタを使いました。気にしないでください。土方の末
来は？

次回 僕と秘密と嫉妬

第22問 僕と秘密とH口本。（前書き）

サブタイトルは変えさせて頂きました。

第22問 僕と秘密とH口本。

第22問

土方 side

「僕のうむとらはいめがでんじゅらすまがはいぱーしーくれつとぐ
うわあああああああー！」

「長いぞ亮介。」

「どのくらいなのが分からなが？」

「せめてちゃんとカタカナにして来い。」

「なぜ変な単語が混ざつてゐるんだ？」

「変態だから？」

上から高杉、沖田、近藤

、坂田、小山ヒステリック友香さんの順に突っ込んでくる。

「土方遊びにいつていいか？」近藤、沖田、高杉、坂田以外の男子
の声

「土方くうーん、ちよおつとくつおつちこりつしゅあー。」

「僕が一体何をしたと？」

「秀吉といつフィアンセがいながら、わつき代表さんのスカートを
めくつたから。」

「亮君？ 私じや不満なの？ あんなことまだしながら。」

「秀吉、待つて、僕何かしたかな？」

「何色だつた？」

「白。」

「即答はやめろ。もつ狂走できやうこなー。」

「何で？」

「代表さんが驚いた顔してゐるから。」

「女子のみなさん、しばらく廊下に立つことをおすすめします。」

おつ漱土郎のエスコート。そして優樹に交代。

「血や骨、最悪、臓器や脳が出てくるので」

「墮天使ー、漱土郎の華麗なるエスコートの後にそんなこと言わな
いでよ。」

優樹の発言は酷いと思つ。

第22問 僕と秘密とエロ本。（後書き）

土方の運命はどうなるか。

次回 虐殺と処刑と鉄人

第23問 虐殺と処刑と鉄人。（前書き）

すみません。最近少し忙しいので更新のスピードが落ちる可能性があります。

第23問 虐殺と処刑と鉄人。

第23問

高杉 side

亮介 処刑中 しばらくお待ちください。

「すつきりしたなー。」

「酷いよ、優樹、何が三分クツキングだよ、一分52秒だったじゃないか。」

「気に入ら負けだ。ところで生きていたのか?」

「もちろん、秀吉が居る限り死なない体质でね。」

「貴様は歪んでる!」

「和希か、今のは。」

「その歪みこの俺が断ち切る!」

「やはり君とは運命の赤い糸で結ばれているようだ。」

「生きもいな、処刑しよつか。」

「斬り捨てーごめーん!」

「やめろ、高杉。」

「ソロモンの悪夢、邪魔しないでくれないか。」

「やるなら一斉に殺るべきだ。」

「とりあえずバスター・ソードでいくか。」アルケー版

「遣られるか、僕は秀吉と未来を切り開くんだ。」

「急けるなどといったはずだー!」

「先生、とりあえず落ち着いてください。」

「すまん。つい昔の癖が発動していまう」

「みんな、聞いて頂戴。私は今からBクラスかFクラスに試召戦争をしようと思うの。」

「理由は何だ?」

「今ともいらついていて地獄の底にたたきつけたいからよ。Bクラスは女装趣味の変態、Fクラスは私達を挑発した仕返しをしたい

と思つてゐる。みんなの意見を聞かせて。」

第23問 虐殺と処刑と鉄人。（後書き）

試召戦争編？スタートの予定です。

次回代表と選択と戦争

第24問 BクラスとEクラスと試験戦争。（前書き）

えつと、最近は百合と香奈の出番がないですね。できれば出番をうと思います。百合と香奈は最初はメインヒロインだったのに最近は出番ないといつ悲しい始末。

第24問 BクラスとFクラスと試合戦争。（後書き）

次回鉄人と補修と二宮金次郎

第25問 鉄人と補修と一宮金次郎。（前書き）

試召戦争スタート

第25問 鉄人と補修と一宮金次郎。

第25問

高杉 side

「まず、教室まで押し込むのよ。」

「姫路さんの相手は漱土郎君お願ひね。」

「分かつたよ、友香。」

「その後は俺にまかせてくれないか?」

「分かつたわ、お願ひね。」

「悦司、お前は俺の護衛だ。みんな手を貸してくれ。報酬は明久の女版、じゃなくアキチャンと呼ばれる奴を遣ろ。」

「「「イエスユアハイネス」」

廊下

土方 side

「秀吉の為にも負けるわけにはいかないんだーー！」

「吉井さん、貴方は女子ですよ。というより、貴方やムツツリーーあたりは頂こうとしただけなんだ。」

「姫路さんは?」

「悪いが坂本は無理だよ。」

「何で?」

「彼奴は妻と団らんの時間がいるから女装させて写真を撮つて、渡すからだよ。」

「分かつたよ、私も協力します。」

「ありがとうございます。」

「大丈夫か亮介?」

「優樹、やつたよ、吉井を味方にできたよ。」

「すまない、吉井、この変態が迷惑かけただろ?」

「いえいえ、そんな、それより…」

第25問 鉄人と補修と一宮金次郎。（後書き）

明久が仲間になりました。

次回 裏切りと戦争と戦後対談

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。（前書き）

先日は投稿できずすみません。今回はFクラス戦集結の予定です。

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。

第26問
明久 side

「それより高杉君、元に戻してくれない？」

「優樹でいいぞ、そして、断固辞退する。」

「待つて、戻す方法はないの？」

「それよりアキちゃん、まず首を採りに。」

「そのとおりだね。」

「こちらに女神が微笑んだ！一気に終わらせる！」

Fクラス

「…雄二、明久が謀反を。」

「明久が？」

「伝令、敵は…」

「どうした？」

「そいつは補修送りだ。」

「何者だ！」

テテテ テテ テテテテテ テレレ テレ テテレッテレ (BGM UNION)

「グラハ…といきたいが高杉優樹だ。」

「あの黒武者か。」

「高杉優樹は坂本雄二に古典の勝負を所望する。」

戦闘シーン 省略します。

「斬り捨てー、ごめーん！」

「勝者Cクラス」

「明久、どうして裏切った！」

「一部の生徒をクラスの設備に連れていくと約束してくれたから。」

「何だつて！」

「しかも根本達を送りつけたあげくに雄一の女装な見たくないから。
「俺に何が起きたんだ？」

第26問 裏切りと戦争と戦後対談。（後書き）

グラハム風にしてみました。それはどうでもいいとして
次回 女装と写真と戦後対談

第27問 女装と写真と戦後対談。（前書き）

最近、両立が難しくなっています。

第27問 女装と写真と戦後対談。

第27問

高杉 side

「さあ、代表様、戦後対談といきますか。関係者以外でていくことをすすめます。地獄絵図を見ますよ。」

「喧嘩で俺に勝てるわけないだろ。」

「喧嘩はするが待つてくれ。」

「もしもし、学年主席様でしょつか？坂本雄一君が吉井秋子さんの胸を触っています。以上、旧校舎からでしたー。」

「やめてくれ、頼む。」

「断固辞退する。」

「雄一、浮氣するなんて万死に値する。」

「お仕置きなら後にしてくれないか？雄一の写真集をつくるから、主席様は彼の妻だから無料にしつくよ。」

「ありがとう、土方はいい人。あと、霧島でいい。」

「土方、秀吉とデートでも逝つてこい、地獄を見るか。」

「分かつたよ、行くよ秀吉。」

「うん。」

side out

土方 side

「秀吉の家にいっていいかな？」

「ダメ、絶対に。」

「子供の名前を秀吉の部屋で考えよう。」

「うん。」

「あれ、さつきダメって言つたよね。」

「じゃあ、行こうか。」

移動中

木下家

「お邪魔します。」

「あら、どちら様でいらっしゃるか？」

「秀吉の彼女をしている土方亮介です。」

「あら、土方君？懐かしいわね。まあ上がりなさい。」

「はい、お言葉に甘えて。」

第27問 女装と写真と戦後対談。（後書き）

感想よろしくお願ひします。

第28問 土方と木下家。（前書き）

何日更新していないか自分でも分かりません。

第28問 土方と木下家。

第28問

高杉 side

「あのババアの許可が無いとそんなこと出来ないわ。」「許可是取つてある、氣にするな、それより忠志、撮影と着替えを。」

「こんなゴリラなんて相手にシタクナイ、時間の無駄。」「

「えつしー、よろしく、明日見せてくれ。」「

「ああ、期待してくれ。」

「何から着せますか？奥さん？」

「えつと…」

やばいな、急がんと死人が出る。

土方 side

木下家

「亮介くん久しづびりー、元氣？」

「秀吉のお陰で元氣です。」

「それはよかつたわ、結婚式、何処で挙げる？」

「ダメだよ、お義母さんとお義父さんが来てないんだから。」

「待つてください、何か飛びすぎてます。」

「何時になつたら亮君はお義母さんと呼んでくれるの？」

「結婚を前提に付き合つてゐるのに何故、結婚の後についていわれるんだろ。」「

「え！違うの？」

「この人マジやばい、昔から変わつてないな。」

「お義母さんはハワイがいいな。」

「違いますつて、それは僕が18歳になつたらの話です。」

「亮介君はそんなにHなこと好きなんだ。」

「違いますつて、秀吉に呼ばれたからです。」

「違いますつて、秀吉に呼ばれたからです。」

「秀吉一、誰か来てるの？」

「あら、土方君じゃない。」

第28問 土方と木下家。（後書き）

木下優子登場。雄一達については書いたら、雄一や読者の皆様が嘔吐の恐れがあるので省略しようと思します。

第29問 亮介と秀吉と優子。（前書き）

木下家編スタート

第29問 亮介と秀吉と優子。

第29問

土方 side

「あら、土方君じゃない。」

「あれ、昔みたいに亮君って呼んでくれないの？優ちゃん。」

「その呼び方やめてくれないかしら、そしていつもだけ亮君と呼ぶわ。」

「なんて呼ばべばいいのかな？腐女子？？」

「なんで亮君がしつてるの？」

「昔からの付き合こじやないか。」

「なり、亮君はロリコンね。」

「なぜそれを？」

「亮君と理由は一緒。」

「優子、結婚式どこのがいいかしら？」

「秀吉、お姉ちゅんはヨーロッパがいいなー。」

「亮君、お義父さんとお義母さんを呼んで。」

「家族面談ならあたしは邪魔ね。」

「優ちゃんもいていいよ。といつよつこるかな？」

両親に電話中

「さて、お父さんを呼ばなくちゃね。」

「子供の名前どうするの？」

「せりに発展しちゃつてる。」

「まつて母さん、子づくりどうかキスすらしてないんだけど。」

「よくいづな。一緒に寝よつとしたり、一緒に風呂に入よつとしたのにな。」

「「ええ、そこまでこつちやつてるの？」

「親子で一文字違いなく驚いてる。」

「そこまでつてどこまでですか？」

ピンポン

インター ホン？の音

「どちら様でしょ うか？」

「私は土方直人、こちらが妻の土方遙です。」

』

第29問 亮介と秀吉と優子。（後書き）

土方夫妻、といつても亮介の親ですが。
木下家編第三話、お楽しみにしてくれるとありがとうございます。

第30問 亮介と両親と家族面談。（前書き）

昨日は投稿できずすみませんでした。

第30問 亮介と両親と家族面談。

第三十問

土方 side

「父さん、母さん、来たの？」

「いやー女の子の声が沢山聞こえてくるから亮君が彼女選びに困つてゐるが、子供を作らうとしてるがどうかかと思つがな。」

「待つてね父さん、それじゃ僕が変態みたいじゃないか。」

「おや、そうなのか？」

「あら、意外だわー。」

「それが実の息子にいう言詞か。」

「そうですよ、お義父さん、お義母さん。亮君は早く大人の階段を登りたがつてゐるだけなんです。」

「あら、秀吉ちゃんと優子ちゃんじゃない。」

「お久しぶりです。」

「秀吉、それじゃ僕が変態だつて所を否定しないじゃないか。」

「「「「亮君、よく氣づいたね、すう」」よ。」」」」

「この場にいる全員からいわれると説得力がありすぎるので困るんですけど

「まあ、上がつてください。」

「「すみません、」」

「とりあえず、式場につけて話し合いましょう」

「まつてくださいよ、こうこう飛びすぎでしょ。」

「「「「どうが？」」」

何故、おかしいのに気がつかない、おかしそうが、ういは優ちゃんに。

ダメだ、優ちゃんはアイコントラクトで無理と返してきた。

「ああ、お父さんがいないからか。」

「「「ああ。」」」

納得するのにおかしこよ。

第30問 亮介と両親と家族面談。（後書き）

土方夫妻については紹介抜きで行こうと思ひます。

第31問木下夫妻と土方夫妻と婚約（前書き）

今回はギャグ少なめだと思います。だからといって、シリアスな話でもありません。

第3-1問木下夫妻と土方夫妻と婚約

第3-1問

土方 side

「ただいま、おや、客が来てるのか？」

「お父さんが帰ってきたよ。」

「お父さん、早くしてください。大事な話があるので。」

「大事な話？おや、亮介君かね？後ろにいる一人は亮介君の親でしょうか？」

「土方直人です。そして、妻の遙です。」

「まさか、婚約の話なのか？だが、秀吉は男だ。」

「何いってるんですか？秀吉は今は立派な女の子ですよ。昨日、メールで言つたじゃないですか。」

「亮介君、秀吉をどうか、よろしく頼む。」

「何なのこれ、結婚にハイスピードで走つているんですけど。」

「式は何処がいいですかね？お父さん。」

「待て、京子、とりあえず飲むぞ。亮介君も飲め、今日は秀吉に婚約者ができたんだ。京子、赤飯だー。」

「どうしよう、止められない」

なら、優ちゃんに…

ダメだ秀吉に間接技を決めようとしている。

「待つて、優ちゃん。それは危ないから。」

「分かつたわ。」

「ところで秀吉のお父さんの名前は？」

「今日からお義父さんと呼ぶから言う必要がないと思うが、私は木下醍醐だ。」

「まさか、平安時代から生きてるんでしょうか？」

「そんな訳ないじゃないか。」

第3-1問木下夫妻と土方夫妻と婚約（後書き）

木下夫妻については由来はありません。変換任せです。

第32問木下夫妻と土方夫妻と飲み会（前書き）

最近、ペースがとても遅いと思うので、じばしていりうと思います

第32問木下夫妻と土方夫妻と飲み会

第32問

土方 side

「どうしよう、酒は初めてだしな。」

「まさか、こんなにも早く、自分の子供と酒がくみ交わせるとは幸せですねー、直人はー。」

「まさか、こんなにも早く、義理の娘が出来るなんて思いもしませんでしたよ、うれしいよなー、遙ー。」

「はい、嬉しいですよ、この性にしか興味のない人に妻ができるとは、明日にでも、式をあげません?」

「それは残念ながら無理ですよ、亮介君が18歳になるまで、ダメですよ。」

「明日学校なんですけど。」

「気にするな、先生には話しておく。」

「納得すればいいけど、あの妖怪が。」

「亮君、藤堂先生にそんなこといつちやいかんぞ、せめてぬうりひょんとイエ。」

こんな感じで日付が変わるまでこんな話が続く。

「そうだ、亮介君、泊まつたらどうだ? 昨夜は秀吉が世話になつたからな。」

「着替えがないんですけど。」

「ちやーんと持つてきてるので安心していいですよ。」

「すみません、お世話になります。」

「秀吉とセツグふああ。」

「痛いじゃないか、京子。」

「まあ、今日はお開きで。」

「無視なのか?」とことで終わつた。

寝る時は昨日の繰り返しだつたことはいつまでもない

第32問木下夫妻と土方夫妻と飲み会（後書き）

明日はBクラス戦です。
根本君が墜ちる予定です。Fクラスへ

第33問 仲間と変態と処刑の時間（前書き）

試合戦争編第2弾スタート

第33問 仲間と変態と処刑の時間

33問

土方 side

とりあえず、学校にいます。

朝はいろいろ、あつて思い出したくないので省略します。

「おはよう、亮介。」

「なんだ、悦司か。」

「おまえひストライクベントを使つていいか?」

「僕は、ガイの奴が見たいなー。」

「龍騎の方だ、くたばれ。」

「ぐわあええええええあああ

「亮君を虐めちゃ、ダメ!」

「鋭い斬撃がもう響くー。」

「亮君をやるのは、あ・た・し」

「ダメだよ、亮君を遣るのは私だから。」

「おはよつ、土方君、秀吉。」

「おはよつ、元・明久。」

「やめてくれない、泣くよ、僕。」

「土方が秋ちゃんを泣かせたぞー、総員突撃ーー！」

「ところが、ぎつちよんー！」

「カナンにやられるなら俺達はしあわ…

ぶしうつぞくしうつぞくしうつしうつ × 10

「やめるのじや、神楽。」

「こまからしよつとしたのにー、ヒテンのケチ。」

「そういえば秀吉、いつ来た?」

「あの時以来、ずっと一緒にだつたよ。」

「あの時?」

「亮君、とても気持ちよかつたよ」

ザツ×モブキャラと愉快な仲間達

「みんな、違うよ、僕は、」

「亮介は悪くない。」

誰だろ、僕を助けてくれたのは。

第33問 仲間と変態と処刑の時間（後書き）

本当は宣戦布告まで行きたかったのですが、入りきりませんでした。

第34問 仲間と変態と救いの手（前書き）

久々にモンハンやつたら、下位のショングガオレンにぼろ負けでした。理由は、ハンター・ボウーとハンターシリーズで遊んでたからですが。と言つわけで第三作目はモンハンを書こうと思います。くわしくはきめてませんが。

すみません、前書きが長くなりすぎました。

第34問 仲間と変態と救いの手

第34問

沖田 side

ガラツ

あれ、和希と教室にきたら円になつてゐる。中心はいつもどおり、亮介だつた。

「一体、何があつた？ 優樹。」

「彼奴が性犯罪者だといつことがばれただけでみな、退いてるだけKU。」

「「なんだ、それだけか。」」

和希とハモる、まあ親友だしハモつて当然か。

土方 side

「優樹ー、たすけてー。」

「断固辞退する。」

「秋子ー。」

「まさか、亮君が。」

「悦司ー。」

「今、楽にしてあげよつか。」

「悦司、浮氣は許さない。」

悦司、ヅラ麻里さん、退場。「秀吉ー、助けてー。」

「なら、私のお願ひ聞いてくれる？」

「オフロース！」

「じゃあ、昨日の続きを」

「「めんなさい、土方君、宣戦布告に逝つてきて頂戴。」

「分かつたよ、代表。秀吉、帰つたら伝えたいことがあるんだ。」

「亮君。」

「秀吉。」

僕たちの幸せが

「我々Bクラスは今からCクラスに試合戦争を申し込む。」

「いいわよ、ネモネモ。」

「友香、そのとなりの奴は……」

「根本?」

「ネモネモ、討ち取つたりー、切り捨てー……」

「待つんだ、優樹。人の話は最後まできくのは礼儀だろ。」

「こいつに礼儀は必要ない。そしてすでに始まってる。」

第34問 仲間と変態と救いの手（後書き）

試召戦争開始！ついにあの男が動く！誰かって？一回だけでてる人です。ご要望があつたら申し込んでください。できる限りこたえますので。

第35問 戦争と変態とあの男（前書き）

前回紹介した男とは？

一話だけ、登場し、せりふは一言、オリキャラ一悲しかつた奴。

第35問 戦争と変態とあの男

第35問
悦司 side

さつきの処刑は痛かつたな。

「漱士郎、奴を使うのか？」

「いけ、無料男！」

「兄貴一、おらは忠志です。」

「根本を抑える、彼奴を卓袱台以下へ連れていぐ

「了解です。」

「サモン！」

沖田漱士郎 物理 674点

根本恭一 物理 181点

「せやああああ。」

「坂田和希、加勢します。サモン！」

和希の召喚獣、明らかにクラードだな。

「凶斬り。」

「ぐつふるああああああい。」

「戦争しゅーーけーーー！」

「高杉優樹だ、こちらの目的は、ネモネモ？だつた奴に『』などみかん箱のプレゼントさえすれば設備を落とさない。」

「絶対に完遂させる。」

「待て！おこつぐるはああー。」

「黙らせました。」

「見事だ。雄一？いや、雄子に伝えてやれ、秋子。」

「分かつたわ、優樹。」

「ついでにお前、なんで女のしゃべり方に慣れてるんだ？」

「企業秘密」

「後で話がある。」

第35問 戦争と変態とあの男（後書き）

主人公の活躍が無し。次回、悪いのですが、一気に強化合宿まで飛びます。

番外編 各クラスの放課後 いちっ（前書き）

強化合宿前に番外編をいれさせていただきます。清涼祭は後で投稿するかもしれません。

番外編 各クラスの放課後 いちつ

Cクラス 放課後

沖田 side

無料男の活躍？のおかげで楽勝だった。「無料男君、だっけ？協力
かんしゃするわ。」

「おらは忠志でつせ、姉御」

「沖田君、「イツに光は挙ませないでいいわよね？」

「友香、さすがにそれは。」

「いいわよね？」

といいつつ、大鎌威太刀とスコールが持っている、ガンソードを両
手に持ち、構えている。

「はい。」

しかも、あの殺氣はセフィロス以上、というより、ティガレックス
やラージャンが逃げそうな位だ。

「やっぱ、やめるわ。そのかわりに、漱君、買い物につき合つてくれないかな？」

「身の安全が大丈夫なら買い物ぐらいは…」

「土方を殺せー！」

「あらら、そんなに死にたいのかしら」

初心者ハンターがミラボに襲われているところが浮かんだ。

side out

Fクラス

「雄ー！大変だ！」

「どうした、元明久。」

「女装した根本君が明日から、このクラスになる。」

静かな空気が流れる。

番外編 各クラスの放課後 いちっ（後書き）

えつと一部、キャラ設定を一部変えよつと思ひます。
といつことで次回キャラ紹介 さん

キャラ紹介さん（前書き）

墮天使と呼ばれた高杉優樹と沖田の親友坂田和希のプロフィールと高杉、沖田の修正です。面倒な方はとばして結構です。

キャラ紹介さん

キャラ紹介	高杉優樹
クラス	C
学力	B
外見	セフイロスのような感じ
性格	セフイロスほどではないが悲しい過去があり、あまり、優しさが感じられない。（友達以外）
召喚獣	セフイロスと同じ格好
武器	セフイロスと同じ太刀
腕輪	リュニオン 50点消費
あだ名	慈愛の天使 百点消費、敵点数を七割減らす。
変更点	坂田和希
沖田	クラス B C
外見	外見 クラウド
武器	武器 召喚獣
腕輪	腕輪 召喚獣
外見	外見 召喚獣
武器ガンソード	武器ガンソード
腕輪	腕輪 ライオンハート
外見	外見 スコール
武器	武器 究極武闘神：
変更点	変更点 バスター・ソード
沖田	沖田 召喚獣
外見	外見 スコールとほぼ変わらない
武器	武器 ライオンハート

50点消費、初期点数の半分ダメージ

マッドサイエンティスト
高杉 浜砂忠志

キャラ紹介さん（後書き）

いきなりかえてすみません。

スコールとはFF8の主人公です。

ちなみに高杉と坂田は仲が悪いわけではないので間違いの無いよう
にお願いします。

次回、バカテストを書こうと思います。

感想、ご要望、ご意見、お待ちしております。

番外編 各クラスの放課後につ（前書き）

いきなり、設定変えてすみません。今回は土方達はでない予定です。

番外編 各クラスの放課後につ

Fクラス

「何しやがつたんだ、あの墮天使。」

静寂の中、雄二が声をだす。

「聞きたいか?」

不意に声が聞こえる、その声の主は

「優樹君。」

「坂本、理由は単純。主戦力達を奪つたお礼だ。」

「性格が悪すぎるぞ。」

「雄二がそんなこといえないと思つ。」

「秋子の思つたとおり、あいつにそんなこという権利はない」

小山さんもらしいけど人の考えは読めるものなのかな。

「じゃあ、用が済んだし帰らせてもらひ。秋子、最後の別れは告げなくていいのか?」

「じゃあね、雄子、楽しかつたよ。優樹君、帰らひ。」

「高杉を殺せー!」

「こいつらおかしいな。」

否定できない、どうしてだらう?~

優樹君と一緒に帰つた。呼び捨てだつたら女子らしくないと思つから君づけをがんばつてゐる。

帰り道

「女子になつて頭はよくなつたのか?」

さりげなく聞いてきた、きつい質問。

「そんな訳ないじゃい。」

性別が変われば頭は良くなるのかな?

「なら、生活はいつもどおり塩水か」

なぜか優樹君は私の食生活を知つていた。

普通の雑談の後、いえの前で別れて帰つた。

次回から？強化合宿だと思います
感想、ご意見、ご要望等、お待ちしております。

第36問 僕とバスと脅迫状（前書き）

PV19000達成。（いえーい！）

なぜ、こんな、中途半端な所で祝つてる理由は二つあります。

一つ、しばらく、確認してなかつたから。

二つ、第3巻に入るため。

という訳で強化合宿編スタート。

第36問 僕とバスと脅迫状

第36問
土方side

今日は、秀吉と秋子？と登校してきた。

靴箱

バタツ×2（靴箱をあける音）

ドン！×2（手紙発見。）

ボー、ボー、（僕の手紙が秀吉の火炎放射器で焼かれる音）
ぎやああああ（秋子の悲鳴）

「秀吉、手紙くらい読ませてよ。」

「だめだよ、亮君。ところで秋ちゃん、何があつたの？」

「脅迫状が。」

「脅迫状？」

「秋子、内容は？」

「貴方の近くの女性に近づくな、近づいたら…」

「どうした？」

「小さい頃の写真をばらまかれちゃう。」

「一体、どんな嫌がらせだ。悲しすぎる。」

「姉さんの可能性があるけど、今は大学生だから。」

「違う、なら姫路か？」

「あら、明君、まさか、目覚めたんですか？」

「個人的にはこれは秋子の姉だと思う。」

「貴方は、えつと…」

「土方亮介です。」

「私は吉井昭といいます。貴方は土方桜さんの弟ですか？」

「姉さんを知ってるんですか？」

「はい。ボストンの大学の親友でしたからね。」

「待て、姉さんの知り合いだと。常識人じやないな。この人。

第36問 僕とバスと脅迫状（後書き）

土「土方亮介から始まるー。」

沖、坂、高、近「いえー！」

土「後書き雑談会ー。」

土「どうも、司会兼主人公の土方です。」

高「作者代理の高杉優樹だ。」

近「副司会の近藤悦司です。」

沖「サポートーの沖田漱士郎です。」

坂「上に同じく、坂田和希です。」

土「このコーナーはこの作品についてキャラたちが雑談するコーナーです。優樹、作者は？」

高「閃光の伯爵はもう一方の作品の方にいった。」

近「あいつ、捨てたのか？」

沖「ちなみに、作者の呼び方はライトニングカウントのため、ユーニー検索では気をつけてくださいね。」

土「おつと、もう時間。作者についてキャラが文句を言つ権利があるのか？では次回でまた会いましょう。」

第37問 僕と姉さんと脅迫状（前書き）

土「土方から始まるー、」

山「いえー。」

土「作者の報告ー。という訳で、土方亮介と、」

山「最近、出番がない、山崎百合で送りします。」

土「今日の報告はしばらく更新が出来なくなるかもしけない」と、

山「PV20000達成！」

二人「これにて報告を終わります。本編をどうぞ。」

第37問 僕と姉さんと脅迫状

第37問
土方 side

今、僕らは学校にいます。理由は強化合宿のバス待ちだったのです
が、

「姉さん、何で此処にいるのさー？」

「今日から、この学園の教師だからですよ。」

「なんですとぅおーー！」

いや、おかしい。

「確か、2ーCでした。」

「そんなbananaー！」

ババア何しやがつた。僕達がいったい何をしたと。

「亮君、それ古いよ。」

わかつてる、だがそれよりも

「秋！」 「亮君！」

「ババアを潰しにいくぞー！」

「逃がしませんよ。」

ガシッ（僕らが昭さんに掴まれる音）

バキッ（骨にヒビが入る音）

ガシッ（秀吉が僕にサブミッションをキメル音）

ゴキッ（秀吉に間節を外させられる音）

ぱたり

side out

「亮君、此処で寝たら迷惑だよ。」

二人の死体？は保険室に運ばれた。

3時間後

バスの中にいた。

第37問 僕と姉とと脅迫状（後書き）

土「第一回」
沖「後書き」
坂「雑談会」
高「今日は、意見箱を置いたら、様々な悩みが来たらしい。それを
答えてもらつ。」
土「今回だけで？」
沖「期限は無いそうだ。」
坂「一個ずつ答えればいいわ。」
高「方様、私の弟が私に出番をくれません。」
土「姉さんか。」
沖「その前に、それは作者にこつべきだ。」
土「伯爵さーん。」
僕と翼と駄還獣があるので先にこきます。
坂「きっと出番がきますよ。」
土「姉さんは出なくていいよ。」
高「ちなみに 方さんは三話後ぐらじに出るやつだ。」
沖「次回をお楽しみに。」

第38問 僕とバスと暇潰し（前書き）

バスの中で一話ぐらい取ろうつと思います。

第三八問 僕とバスと暇潰し

第三八問
土方 side

うーん、何処だ？僕たちは
「亮君、大丈夫？」
「秀吉がいるから大丈夫だよ。」
「あれ、土方君、目が覚めたの？」
「友香、何をする気？」
「男子が土方君を渡せとウルサイから渡そうとしたけど、
恐ろしい。さすが元・根本の彼女
ガシツミシミシミシ…
「ぐうるわああああああ。」
「亮介君ウルサイですよ。」
「邪悪な気配。」
「誰が邪悪ですか。」
「遠藤先生、この方は？」
「初めてまして、土方亮介の妻兼教師の吉井昭です。」
「昭さん、冗談は…」
「亮君、浮気はダメだよ。」
「死刑執行」
「忠志、何故此処にいる。」
「おいらーは、このクラスでつせ。」
「マジで？根本の引き渡しだけじゃないんだ。」
「亮君。」
「何かな秀吉。」
「お昼、食べよ。」
「いいけど、視線が凄く痛い。」
「気にしちゃダメだよ。」

第38問 僕とバスと暇潰し（後書き）

土「悩み相談箱につ」

高「亮介はスルーして、ペンネーム、悦司、愛してゐるさんの意見。
近「麻里だよな？」

沖「たぶん。」

高「私の許嫁が他の人の尻や胸を触りまくつていつ浮氣するかわ
からない。」

秀「私が答えるよ。彼氏持ちの人共通の悩みです。私も毎日、亮君
と一緒にお…」

土「今回はここまで。次回を…」

坂「亮介は相変わらず痴漢をしてゐるのか。では次回もお楽しみに。」

第39問 僕とバスとお昼ご飯（前書き）

昨日は投稿できませんでした。すみません。

土「理由は？」

寝つこうがってたら睡魔に負けた。

土「このバカ作者め。」

作者に逆らつたら…

土「すみませんすういたああああ、チョーシ」とてましどうあああ
！」

変態はスルーして庇つぐ。

第39問 僕とバスとお昼ご飯

第39問

土方 side

「亮君、秋ちゃんとかも呼ばうよ。」

「秋ー、昼飯一緒に食わないか?」

⋮

反応がない?

どうしたんだろう?

「秀吉、秋が倒れてる。」

「あれは、姫路の仕業だよ。」

姫路の料理はどのくらいやばいんだろう?

「姫路、俺にも一つくれ。」

どんな味か、気にな...

ドサツ

前言撤回 味の問題じゃない、薬品の味が...

side out

秀吉 side

ドサツ

なんだろ? 嫌な予感が...

「亮君ー。」

亮君が倒れていた。

姫路、もうあいつは許さない。

「亮介、大丈夫か?」

沖田も心配してくれてるみたいだ。

シーン...

返事がない、どうしよう?

どうやつて姫路を消そつかな

こんな事考えていたら、合宿所に着いた。

第39問 僕とバスとお昼ご飯（後書き）

土「作者が述べる一、自分の書いた小説感想一。第39問編」

閃「秀吉が崩壊した所が後書きかいてたら、あれ、おかしいな?と思いましたがまたまにはこんなでいいかなと思いました。」

土「長つたらしくて、面倒な感想をありがとうございます。次回からは覗きですよね。」

もう一方の更新があるから帰らせてもらう。

作者 閃光の伯爵より

土「勝手にくうわえるぬうあああ！」

沖「次回からは主人公の過去についてです。」

坂「理由は、主人公の過去について知りたい人がいると思うのと、走馬灯を見てほしいからです。」

高「次回から、過去編です。よろしく。」

第40問 僕と過去と走馬灯（前書き）

なんと、僕と翼と召還獣より、週間ユニークアクセスが多いという
こと。

土「きっと、僕と秀吉の感動的な愛のおかげさ。」

土「待って秀吉、声まねなんてやめてよ。」

秀「分かったよ、亮君。では過去編をどうぞ。」

第40問 僕と過去と走馬灯

土方亮介の過去

司会は土方亮介で行います。

小学校

小三の時に、香奈、高杉と出合つ

土方 side

「かーなちゃん、お兄さん達とHメラルドの都までランデブーしない?」

「離して下さい。」

「調子にのるなー!」

「やあめりおおおー!」

「だれだ?」

「破壊する」

「は?」

「貴様等を破壊する!」

「己の意志で!」

「土方亮介だ。」

「さしづめ、武士仮面だ。」

「かかれ!」

「ライダーキック!」

「ぐふああああああ。」

「誰?」

「おまえら、殺す。」

「やめなさい。上級生として恥ずかしくないのか?」

「すみませんでした。」

「ありがとう。お名前は?」

「土方亮介だよ。君は?」

「香奈。神楽香奈。私は亮君のお嫁さんになる。」

「土方、近藤、高杉、職員室に来るよう」「これが高杉、神楽、近藤との出会いであった。

第40問 僕と過去と走馬灯（後書き）

過去編は台詞がとてもなく多いのでご理解ください。
次回は沖田、坂田、山崎との出会いです。

第41問 僕と過去と走馬灯2（前書き）

過去編はいつも以上に駄作なので読みたい人以外はとばすことをおすすめします。

第41問 僕と過去と走馬灯2

過去編

中学

土方視点

僕はあの事件で三人と知り合った。そして文月中学校に四人で入学していた。

「同じ学校だね、みんな揃つて。」

といいつつも新しい友達を期待している。当然、この三人も大事だけど。

ゴン（優樹が頭を殴る音）

バン（悦司が僕を押す音）

バン！（だれかにぶつかった音）

やばい、謝ろう。

「すみません。」

「いや、こっちが悪いから気にしないでくれ。」
とてつもなく優しい人だな。

「僕は、土方亮介、あの、お二人とも名前は？」

「――はははははは。」

何故か香奈以外に笑われた。僕が一体何をしたと？

「俺は沖田漱士郎。」

漱士郎かー。なんかかっこいいな。名前的にもかっこいいし。

「俺は坂田和希だ、よろしく。」

こっちもイケメンだ。まさか、類は友を呼ぶという奴かな？
ということは…

「安心しろ、お前は不細工だ。」

期待した僕がバカだつた。

「亮介（変態）は置いといて、スコールとクラウドに似てるな。」

僕の扱い、酷い。

「そういう君は、セフィロスかな？」

「俺は、高杉優樹。いや、文月の墮天使という方が分かるか。」

「俺は文月の獅子、和希は文月のアルテマウェポンとして通ってい

る。」

第41問 僕と過去と走馬灯2（後書き）

一話に入りきりませんでしたが、次回は最後に木下姉妹で閉めたいと思います。

中学は、何かの記念に改めて書くと思います。

第42問 僕と過去と走馬灯3（前書き）

今回で過去編も最後（の予定）です。くそ作者と戯つてると戯じますが、どうか見てくれるとありがたいです。

第42問 僕と過去と走馬灯3

過去編3
土方視点

あれ？さつさまで中学の話だったのに、幼稚園の話へ戻つてゐる。まついつか。

「まつて、優ちゃん、秀ちゃん。」

なつかしいなー、一緒に遊んでても、秀吉が男といつのを知らなかつた僕。幼なじみなのに。

「分かつたよ、亮君。」

こちらは優ちゃん。秀吉が男だと知つてたら、今の秀吉と僕みたいになつてるかもしねれない。

「亮君、まつたく、しかたないのう。」

こつちは秀吉、幼稚園児の時から爺言葉を使つ、現在の彼女。どうしてそんなに一人とも急ぐの？

「早く遊びたいからよ。」

「そのとおりじゃ。」

この時の僕らは走り回つたりするなど一般の遊びをしていた。こんな毎日を過ごしていただが

別れが突然やつてきた。

一年間親が仕事関係で外国にいくはめになつた。僕は親戚の世話になることなつた。

「亮君、待つて。私たちを置いていかないで。」

「そうじやぞ。」

「一年たつたらたぶん会えるよ。それより秀吉。」

「何じや？」

「大好きだつたよ。」

「気持ちは嬉しいのじやが、わしは男じや。」

「僕の初恋がー！」

虚しくチッタ。秀吉が女子になるまで念つことが無かつた。
これつて走馬燈じゃないか。田を覚ますと皆が心配そうに見てた。

第42問 僕と過去と走馬灯3（後書き）

無茶苦茶ですがすみません。次回からは強化合宿と後書き雑談会を再開します。楽しみにしてくれるとありがたいです。

第43問 僕と合宿所と覗き（前書き）

昨日は投稿できず、すみません。日曜日に体育大会があり、その疲れに勝てないため、終わるまで休ませていただきます。ご勝手ですがお許しください。

第43問 僕と合宿所と覗き

土方 side

あれ? ここは? 合宿所か。何故、此処にいる? 簡単さ、料理食つて倒れたからさ。

自問自答を繰り返し、状況を理解する。秀吉とかが心配そうにみてる。

「亮君、大丈夫?」

「こちらは彼女の秀吉。赤い液体が制服に付いてるが気にしない。

「大丈夫だよ。」

「冗談抜きで危なかつたからな。」

悦司がジョークであつて欲しいことを真顔で言つてる。まさか…

「前世の罪を償つたり、秀吉とかに遺言とか言つてたから、もう駄目かと思った。」

こちらは優樹、セフィロス似の友である

「マジで?」

「本當だ。」

こちらは文月の獅子ことスコール似の漱土郎、彼はこんな所でジョークは言わない。

「いい加減認める。」

和希まで言うなら認めざるをえない。

「にしても廊下がとてもうるさいんだが。」

あ、本當だ。隣からか。

「手を後ろに組んで、動かないで頂戴。」

「この声は…

「友香の声だ。」

「悪いけど、中林さん、後はお願ひね、もう一つ」
まさか…、まさか…。

「木下さん以外は手をくみ、おとなしくしなさい。」

やはり、でも、なぜ僕らなんだ？

「俺達の理由は？」

「土方君は変態だし、その周りにいるからやめてこのよ。

僕ってどんな感じで見られてるろ

第43問 僕と合宿所と覗き（後書き）

土「今日は秀吉に付いてた赤い液体について。」

高「秀吉、言つてやれ。亮介がびっくりするだ。」

沖「確かに何があつたんだ？」

坂「俺は、断末魔の叫びしか聞こえなかつたんだが。」

土「今ので、だいたいわかつた。」

高「正解を。」

秀「まず、姫路の関節をすべて外し、悲鳴を聞き、駆けつけた島田に膝十時固めを…」

土「ストーリップ、それ以上はお茶の間に流せないから無理だよ。」

近「メタ発言をするな、リア充野郎が。」

高「お前も人のことは言えない。」

沖・坂「そのとおりだな。」

近「なんだと…」

高「亮介、秀吉、しめる。」

土・秀「悦司は無視して次回もお楽しみに。」

近「無視すんな…！」

44問のやきとバカと待ち伏せ（前書き）

明日の予定だった、体育大会は水曜日に延期となりました。また投稿できそうにないですが、ご了承ください。

44問のやきどバカと待ち伏せ

土方 side

「友香、証拠は？」

「これで無かつたら、恥ずかしい目にあわせてやる。

「代表、つまらない理由だつたら襲われて大変なことになるわ。」

優樹に思考が読まれている。

「たぶん、欲求不満をお前ひぶつけるだらつ、もちろん性的な方と思うがな。」

くそ、どこまで思考を読んでるんだろ？

「証拠はこのカメラよ、これに指紋があるのよ、貴方がのがね。」

何！

「忠志め、しくつたか。」

くそ、ムツツリーに頼むべきだつた。

「兄貴ー、見つかってない奴ありましたっせー。」

「ビンゴー！となりで何か盛り上がりってるなー、何だろ？

「いくぞ、ムツツリー、須川！」

悦司とアイコンタクトで連絡する。

「悦司！」

「ぐわああああああああああああー！」

「こりや、無理だな。と言つとでも思つたか？

僕は悦司の首を引っ張りながら坂本の所にいく。

「坂本、待つてくれ。」

「悦司に土方、どうした？」

「俺達も濡れ衣がかぶさってるんだ、手伝はず。」

「そりや、助かるな。」

「やつた！仲間ゲットだぜ。」

「布施センは僕がやるよ。」

肉体的にやりたいけど無理だから。

物理
生徒
教師
土方亮介
卑怯だ。
布施つち

1
7
8
点

6
8
7
点

44問のやきとバカと待ち伏せ（後書き）

テストが悪かったので、最悪、投稿がしばらく無理かもしれません。
ご了承ください。

45回のやさしさとバカと合図自體（前書き）

明日、体育大会が延期になりました。連載は再会しようと思います。近いうちに3作目を書こうと思います。バカテスのクロス物の予定です。

45 間のやきとバカと合図自體

土方 side

あののぞき作戦は失敗に終わり、ガトー少佐（笑）に鉄拳指導を受け、反省分を英語で書く羽目になつた。
敷いてあつた布団の中に入り、寝た。

はずだつた。だけど、秀吉がいる。服を何故か着ていない。下着はつけていなかつた。

つまり裸だつた。これがばれたら…

この学年の男子九割が敵になる。にたよつた立場のやつがいれば…

いるわけ

いた。悦司だ。

こんな状況で朝を迎えた。

「おはよう、亮君。」

何故、さりげなく挨拶出来るのだらう？

「なんで此処にいるの？」

変な理由じゃないように…

「夫と妻は裸で一緒にねても問題ないと思つけど。」

問題ありすぎだよ。悦司達も同じやり取りをしていた。なら

悦司の首を探るのみ。

バツ（僕と悦司が襲いかかる音）

ガシッ（お互い、肩を掴む音）

ビキッ（お互いの骨にヒビをいれる音）

ゴロゴロ（痛いので転がる音）

ガチャ（ドアが開く音）

ドン（鉄人が吹き飛ばす音）

「静かにしろ。」

「了解です。」

くせ、タイミングが…

という事が朝にあり、合図学習の時間に。

「待つて、秀吉、それはさすがに。」

なにが起きているかって？単純に周りからほととぎしもイチャついてる
ようになしか見えない。

45 間のやまとバカと合図直瀬（後書き）

妙な終わり方ですみません。久々に書くと、元々文才がないのに、さらに酷くなつていてる気がします。感想、ご意見等、お待ちしております。

46回のやまとバカと合図直翻2（前書き）

昨日は投稿途中に突然切れて、書いていた話が一気に消滅したため投稿できませんでした。すみませんでした。

土方 side

みんなからの視線が…

「秀吉、さりげなく僕のベルトに手を掛けないでくれるかな?」
みんながカッター、ボールペン、裁縫針とかを構えてるから。

「亮君は私のこと嫌いなの?」

これは誤解を解かないと、クラスメートにも殺されかける。

そして、忠志、優樹、悦司、漱士郎、和希がなぜかこっちに来る。

「違うんだ秀吉、（僕は代表の）『お尻が見たい』って誰!違うよ、
今のは誤解（で香奈と秀吉の）「胸に」埋もれたいだけなんだ。
つてそれじゃ、変態みたいじゃないか。」

秀吉と香奈がブレザーを脱ぎ始める

「違うよ、二人とも（僕が見たいのは）『お尻』待てー!5人とも、
僕が変態みたいじゃないか!」

「…………えつ!違うの?」

5人そろつてその反応はちらいんだけど。

と思つたら秀吉、百合、香奈、秋子以外みんな驚いてる。何これ、
集団虐め?流行つてるのかな?

「みんな、亮君は変態じゃないよ。」

僕の味方は秋子と秀吉達だけだ。

「…………ああ」

なんで君たちはそんなに意見が揃うの?

「隠してた趣味がバレただけだしな。」

「…亮介、エロは自重するべき。」

まさか、ムツツリーに言われる人が来ようとは、ショックだ。

46回のナオト・カトウ回（後編）

ムツツリーーがとても久々に喋った気がします。確か試召戦争以来と思います。たぶん一言ぐらいいとおもいます。

47 間のやまとバカと一日一夜（前書き）

ディシディアファイナルファンタジーに今さらはまっている作者です。今はセフィロスとウォーリアが100レベルです。今はスコール、クジヤ、クラウド、セシルの育成中です。

47 間のやきとバカと一日日夜

土方 side

今日は覗きはどうしよう?

忠志と悦司は向かったから行こうかな?

「雄二、僕も行くよ。」

「お前がいれば百人力だ。」

なんか頼られてうれしいな

「みんな、よく聞け、この土方亮介は、あの女装コンテストで秋子と同レベルな奴で特別観察廃棄処分者だ。」

なんでゆうじが知ってるんだろ?

「なんだって!あの超クールな土方お姉様はコイツだったのか?」

「ああ。」

あれってめっちゃ人気あるみたいだ。

「だから、亮介に女装してもらい、がんばった人には亮子とのデートがある。がんばってくれ。」

「イエス、コア、マジエスティ!」

え?何?了解しました皇帝陛下?「コイツ等潰す。

「亮介、お前に地獄をみせてやる。」

ふん、僕はやばいことなんて…

ピッ

電子音の後、再生される。

「優ちゃん、一緒に幸せになろう。」

絶対告白文と思われる。捏造したのだろう。

「画像もあるぞ。」

これは、前に優ちゃんに一緒に一人っきりで遊びに行こうと言われた時の写真じゃないか。

「協力してくれるよな?」

「断つたら僕が…」

「はい。」

さよなら、僕の男のプライド。

47回のやまとバカと一日一夜（後書き）

優子とのお出かけの話は読者は何のことだか、分かつてないと想いますので、説明させて頂きます。

これは連載五十話記念とグラン・パークの代わりの話です。なので五十話終了後、いったん本編から離れます。ご了承ください

48回のやきとバカと三田田（前書き）

皆さん、一つ聞きたいたのですが、この作品での優子と秀吉の判別の仕方が分かりますか？

分からぬ人が居るときの為説明します。優子は一人称をあたし、秀吉は一人称は私となっています。分かりづらい時は参考にしてください。

土方 side

昨日の夜は恥ずかしきるので省略を…

「させないさ、亮介。」

その声は…といつても小説に音声は…

「ある訳がない。」

悦司と優樹だ。待つて説明しないでくれ。

「女装した亮介は女子にも人気が高く、土方お姉様ー。と女子に言われてた。」

穴があつたら入りたい。

「なおかつ、嫉妬により秀吉が女子に潰され、高橋女史、漱士郎と和希が武力介入をして戦闘は終わった。」

本当に大変だつた。でも、今日がラスト、明日は帰るだけ、静かにしてれば問題ない。

「ところで、亮介。覗きが成功したら秀吉の裸が…」

「そうだ！僕は何をしていたんだ！バカじやないか！」

「亮介、少し携帯電話を貸してくれないか？」

「携帯はどうしたの？悦司。」

まさか、づらさんにパクられたとか。

「送信完了。」

「ん？何したんだろう？

「悦司、何した…オイ、人の携帯にお茶かけたあげく、ハンマーで割らないで！」

「酷い、どんな内容なんだろ？」

「ほう、吉井にそんなメール送つたら、少し大変なことにならないか？」

「くそ、どういうメールを…」

「さて、最終決戦に行くとするか。」

「優樹、僕も行くよ。」
そして最終決戦が始まる。

48回のやさとバカと三日月（後書き）

あと三話ぐらいで強化合宿が終わりの予定です。その後はプールの話の予定です。

4.9 間のやあじバカと三日田最終決戦。（前書き）

昨日はバカとテストと大脱走を呼んでたら、更新し忘れていました。
すみません。

49回のやきどバカと三日田最終決戦。

土方 side

「先生、手伝いに来ました。」

布施先生に声をかける。

「なら此処の男子生徒は任せました。」

あれ？捨て駒なんだろうか？優樹達とはばぐれたみたいだ。

「お姉様、どいてください。」

やめて、僕の黒歴史を…

「亮介、終わりだ。」

その声は！といつても小説に声は

「何故だ？お前はなぜ女子の味方をする？」

きつい質問だ。なぜなら昨日まであつち側だったからね。

「気づいたのさ、成功したら、秀吉や、友達の裸が見られる事を。というより悦司君はいつも麻里さんと裸で寝てるじゃないか！」
今朝分かった新事実。

「貴様がいえたことか！貴様が原因なんだ！」

ちつ、反論出来ない。

「土方を倒し理想郷にいくぞーー！」

ヒュー、ドン！

何だろう？

勝手に召喚獣が…あれ一点？みんな一緒だ。この技って？

その後、優樹が曲の片翼の天使と共に入場。

高杉優樹 総合 3978点

近藤悦司 総合 一点

土方亮介 総合 一点

その他の生徒 総合 一点

優樹の腕輪の能力リュニオン。そしてその力の一つ心ない天使。フ
ィールド内の召喚獣の点数を一にするチート並のわざ。

攻撃を食らったら負けのバスマッチが始まった。

4.9 地のナメルバカと三日月最終決戦。（後編）

もつべしで強化合宿も終了予定です。その後はハイラングに行きます。

50歳のやめじバカと三田監終決戦。（前書き）

最近はとても文章が酷くなつてると自分でも思ひます。すみません。
強化合宿も今回終わらせられれば、終わらせたいと思います。

50問のやきどバカと三日田最終決戦。

高杉 side

俺…私というべきか。腕輪によつてだいぶ点数は減つたな。だが、相手は皆一点だな。軽く閃光で終わらせるか。

ヒュー、ズババババ、ドン！

「戦死者は補修うーー！」

鉄人…いや文月の悪夢だな。

side out

沖田 side

「高橋先生は西村先生を連れてきてくれませんか？」

鉄人がくればだいぶ楽になる。

「分かりました。」

「和希、一気にやるぞ！」

「もちろん！」

フィールドは大丈夫かつて？

あちらが張つている。

「ライオンハート。」

俺の召喚獣の武器が変わる。

「エアリアルサークル！」

まわりに赤い玉が出てきてそれが破裂し、多くの男子生徒が巻き込まれる。

「究極武闘真斬！」

召喚獣が武器を変えつつ、多くの敵をまとめて、終わらせる。

「和希は終わらせたら、こっちも終わらせるか。エンドオブハート！」

これで男子は片付いたな。

「残りは、西村先生の所だけだな。」

まあ、鉄人に素手で勝てるのはガーランドかジェクトぐらいだろ。

「一応行こう漱土郎。」
あくまで一応なのだが。

50回のやまとバカと三田田監終決戦。（後書き）

すみません。次で終わりそつなので終わらせてから番外編に行こう
と思います。感想等を頂けたらうれしいです。

5-1 間のやあじバカと三田田最終決戦 真。 (前書き)

久々の投稿です。いつも以上に駄作になるかもしれません。

51問のやきとバカと三日田最終決戦 真。

坂本 side

やはり、明久か土方がいないと難しいな。

「…雄二」浮気は「ぎいやああああ！」

駄目だ。頭蓋骨にヒビが入った気分だ。

「翔子、待て、これには理由があるんだ。じ「…嘘。」って叫すが
だろ！」

何か忘れてる気が…

「坂本、おまえは特別補修をしてやろう。霧島、そいつを離すな。
そのままにすれば坂本と寝ることを許可する。」

鉄人がジョーク？明日はグングニルあたりが降りそうだ。

今日は生き残ろう。明久は大変だつたみたいだ。

side out

土方 side

「ただいまーライオン。」

「俺、参上！」

「つまらん。」×3

×ですませるほどつまらないの？

「おい、ウホウホども早く寝たほうがいいと思つが？」

優樹はなにが言いたいんだ？

「下手したら夜這いでも起きそつだしな。」

僕つてそんなにもてていたつけ？

「ごめんください。」

この声は…秋子かな？元男子だからって抵抗なく入つていいの？

「今日、一緒に寝ていい？」

さらつと核を投下してきた。

「喜んで、といいたいけれど、何で？」

一番気になる質問を……読者の皆様、これは浮城ではありますな。」

安心を。

「俺達はトコ寝るから、ベット使えよ。」 × 4

心遣いに感謝しようと。

5-1 鮎の川を渡るカミ田中監終決戦 真。 (後編)

たぶん一喝です。 どんどん延びてゐる坂がします。
感想等をくれるといつれしいです。

52回のやあじバカと三四三の夜（前書き）

なんか最近、作品が危ない方向に行っている気がします。なるべく早く、合宿を済ませたいです。

土方 side

待て、女子と同じベッドで寝る？だって、さりげなく、あんなことやこんなことを…

していいわけ無い。僕にそんな下心はない、はず。

「確認するけど、一緒にベッドで寝たりしないよね？」

もしそうだったら、明後日の朝日はみれるかなー？

「えつー！違うの？」

女子という自覚はあるんだろうか？

「じゃあ、おやすみ。」

理性があるうちに…

寝れるわけ無かった。秋子が抱きついてたからね。ちゅうぶん腕が…

「もう寝ちゃうの？」

いや、寝ないと、秋子を…

「寝るなら、寝させないからね。」

なんか期待していいのかな？「待って、秋子、浴衣だからって自分

からはだけさせないで。」

これが秀吉にばれたら、右腕以外がエンドティングを迎えてします。無事、寝られますように。

翌日

目を覚ますと、秋子がいた。あれ？こんなに近かったら、唇が…重なっていた。

やばい。キスしちゃってるよ。右腕に柔らかい感触が…やばいよ、秋子に嫌われてしまつ。

なんて、言い訳しようか。右手が金縛りに…これでいいか。

左手は秋子の尻を触つてる。明らかに変態にしか見えないだろ。これ。にしても秋子可愛いな。持ち帰りたいよ。

「う…うう。」

やばい秋子が起きた。

52回のやまとべかと三日月の夜（後書き）

書いてる作者がこいつのもじうかと思こますが、リア充しそうだ。
ア充はシネーと思いました。次回で合宿編は終わりの予定です。

リ

5.3 間のやさしさとバカと最終日（前書き）

ユニーク5000達成！こんな駄文を読んでいただき光榮です。
強化合宿最終日。といっても、朝の出来事だけで終わりはですが。

53問のやさとバカと最終日

土方 side

「亮君、欲求不満なの？」
さりげなくやばい発言だな。

「違うよ、起きたら金縛りになつてて、秋子が可愛いかったのは事実だつたけど。」

あれ？秋子の顔が赤くなつてる？熱だろ？

「朝つからベタベタだな。」 × 4

あれ？昨日の夜もこんな感じが…

「鈍感男の見本だな、これは。」と優樹が言い。

「本当に可愛そうだ。」と、漱土郎。

「確かに、筋がね入りだな。」と和希。

「秀吉に見られたら、修羅場になるな。」と悦司。

皆の意味が分からぬ。

「こついう時に秀吉が来たり…。」

「一番嫌な事考えたら、本当に動かない。

「どうしよう、本当に動かない。」

「亮君、続きを家でしない？」

秋子は誤解を招いてばかりいる気が…

「完全なる浮気だな。」 × 3

「いついたい、何人犠牲者がでればいいんだ？」

違う、絶対に違う！けど秀吉もいいけど、秋子も優ちゃんもいいしなー。恋愛について考え直すべきかな。

「おい、一人とも、早く荷物を片づけないと帰れないぞ？」 × 4

何？ハモらせるの流行つてるの？

というより、帰つたら、もっと扱い酷くなりそうだ。漱土郎、和希、優樹以外停学だし。太鼓の達人でもやりこもつかな？

5.3 間の矢をとばかと最終回（後書き）

強化合宿編終了。

土「最後、無茶苦茶じゃない？」

高「気になら負けだ。というより次回は亮介の浮気だしな。いつもよりユニークやらあがるといいが。」

あー、そのとおりです。

土「酷い！ 作者さん、僕たちの愛は「崩れると面白いかも。」「馬に蹴られて地獄に落ちろ！」「

作・高「次回をお楽しみに。」「
「スルー、ダメ、絶対。」

今回から、オリ話に。これは如月ハイランド編の代わりです。

番外編1 僕と優ちゃんは浮気？

土方 side

誰だろ？人の睡眠を妨げたのは？

「亮君？今日、暇？暇なら一人で出かけない？」

暇だから行こうかな。女子と一人で出かけるなんて初めてだ。

「優ちゃん、是非行かせてもらうよ。何処に来ればいい？」

あつ、時間も…言わなくて分かるか。

「今、家の前にいるわよ。」

なに？まさか、暇だと予測したとは、さすが優ちゃんだね。

「とりあえず、上がってよ。」

といつより、電話する必要ないんじやない。

「お邪魔します。」

「ゆつくりしていいよ。」

なんかお菓子を出さないとね。

「亮君、そういうえば最近、変な噂聞いてるよ。」

う・わ・さ？噂？何の？

「まさか、秋子との事が…」

「吉井さん？詳しく聞かせて。」

事情説明中

「所で何処行くの？」

行き先は分からなかつたから。

「いろいろ。買い物メインだけど。」

なに買うんだろ？

「何時から行くの？」

「今から。」

自分の耳を疑つた。朝食食べてないのに。向こうで食べるか。コンタクトをつけて行こうかな。

番外編1僕と優ひめんと浮氣？（後書き）

土「噂つて何？」

沖「本当に男なのがどうかといつづりでも良い内容だが。」

高「お前の女装は男子を誘惑し、女子に嫉妬心を抱かせるほどだしな。」

土「それって、まさか。」

坂「女の時の方がモテルといつわけだ。」

土「嘘だといつてよ。」

近「俺、遅れたが、参上！」

坂・沖・高「次回をお楽しみに。」

近・土「スルーのネタは昨日使つたばかりじやん！」

番外編1 僕と優ちゃんと浮氣? ひ

土方 side

今、優ちゃんヒショッピングセンターに来ている。

「何処行くの? 本屋で…あれ、右手の間節が、とれそうになつたけど問題ないか。」

よかつたー。悦司みたいに俺の右腕がああああアとか言いたくなかつたからね。

「今日は服がメインよ。亮君に選んで貰いたくて。」

何故僕? 何故僕? たぶん好きな異性でもいるんだろう。憎い、優ちゃんに好意を向けられている奴を殺したいなー。あははひははふ。

「あれって小山さん、漱士郎君じやないの?」

「どうしよう? まあからかいたいしな。行こう。」

「行きましょ。二人の関係気になるし。」

side out

漱士郎 side

友香に誘われてきたが、亮介がいる。あれは、木下優子さんだつける浮氣するの早いな、しかも三股。性格には三角関係を超えて、六角になつてゐるが。

「友香。浮氣してる人見つけたらどうする。」

「謝るまで痛めつけるかな」

「よう、亮介、浮氣か?」

一般的な挨拶をする。

「やあ、漱士郎、今日もゆかりんフィーバーやつてるの?」

何言つてるかわからないが、ラブディバイドを決めたくなつた。

「漱士郎と女王様は一体何を?」

「そうか! こいつ、よく喜んでたよなー。」

番外編1僕と優ひやんと浮氣?~にっ(後書き)

次回はほかのカップルと合流予定です。

番外編1 僕と優ちゃんは浮気? れん

土方 side

あの後、漱士郎達とお話しした後、別れた。
今は優ちゃんの服を見に来ている。

あれは? 悅司? チツ、あいつがもしバレたら僕の右手がー!

「優ちゃん、ちょっとごめん。」

優ちゃんの手を握り、走る。

そして、優ちゃんの顔が赤いのは疲れたからだろうか?

「亮君、どうしたの?」

「変人がいたから、走ったんだよ。」

「ちょっと扱い酷いけど。

「さあ、服を選んで。」

優ちゃんが何か期待している。

どうするか? 僕の性癖を完全解放するべきか、抑えるべきか。

「うーん? 僕の好みでいいの?」

「もちろん。」

僕が選ぶのは当然、露出が多い奴にきまつてゐる。たとえば、肩が出てる奴だと、ヘソ出しどと、ミニスカとか。「亮君つて、こういう服好きなんだ。」

でも何故僕基準?

「だいすく: 着てている人は抱きしめたいほど愛してる。」

「じゃあ、あたし買つてくるわ。」

マジで? Oh, really?

結果的に買つたそうだ。荷物は僕が持つてゐる。僕は健全な男子だしね。

「お皿はどうする? 優ちゃん。」

「ここで済ませましょ。」

僕たちは近くにあつた店。ラーメン屋だけど。

「優ちゃん、ラーメン大丈夫?」
「大丈夫よ。チャーハン食べるから。」
」

こんかいは如月グランドパークにいきます。
しばらく更新できない恐れがありますがご了承ください。

番外編4 僕と優ちゃんの浮氣? 4

土方 side

昼食を食べ終わった僕たちは、如月グランドパークに行つた。

「優ちゃん、ここで何するの?」

「映画見た後に、色々乗る。」

遊園地に映画館があるんだ。

「何見るの? ボーイズラブ? グキッ、バシッ、ボキボキ。セーの、コキ、コキコキコキ。よし、修復完了。」

「え? 人間か? 人間です。」

「ふつうの恋愛ものよ。参考にしたくて。」

「くそ、誰なんだ? というより、あれば…」

「カイン? 違う。ならあの龍騎士は? カインはあんなに髪が長くない。優樹か。あれ? グングールの体勢だよね?」

あれ、全部声に出でた。

「亮君、意味わからない言葉ばっかり言ひ暇あつたら行きましょ。」

「そのとおりだね。」

映画つて長いし、暗いよね。ならさりげなく…したり【閲覧禁止】をしたり出来る。僕はヤレル。

「優ちゃんの好きな人はどんな人なの?」

「あれ、ストレートすぎない?」

「えええええ、ななななななにをいつててるの?」

「優ちゃんは可愛いから、優ちゃんの恋いを応援したいんだよ。」

「言つてしまつた! 嫌われるな。」

「そんな日になつたら教えてあげる。」

「映画は長いなー」

「僕達は映画館を出た。」

久々の更新です。テストによって投稿できませんでした。すみませ
ん。

土方 side

色々遊び尽くした僕達は、最後に日本一の長さを持つ観覧車に乗ることになった。

「ちょうど、夕日が綺麗な頃に乗れてよかつたわ。」

「うん、その通りだね。」

なんか、恋人みたいだ。

「なんか、恋人みたいだね。」

一秒前の考えが声に出ちゃったみたいだ。

「ここここここここ恋人ー!、そんな訳…」

あれ?何?その浮気しそうなの?僕が。

「でも、優ちゃんは恋人の人は幸せだらうなー、殺したいぐらい腹が立つ。」

また声に出ちゃったよー。しかもせつせつやばい版。

「亮君はあたしのことどう思ってるの?」

「友達以上、家族以下かな?」

優ちゃんも欲しいよ、当然。貧乳巨乳は抜きにして。巨乳は嫌いだけど。え?前に胸に挟まれたいとか言ってなかつたって?ねつ造だよ。本当は優ちゃんと秀吉と秋子の三人を愛したいだけなんだ。

「あのね、亮君、今日一日ありがとう。亮君とかじやないと男性の友達がいないの。でも、亮君はあたしのこと最近、相手にしてくれなくて、あたしは亮君にとつてどうでもいいのかなつて思うようになったの。」

ガタン、急に観覧車が揺れる。

そして僕と優ちゃんはお互いを抱きしめながらキスをしていた。

番外編1僕と優ひや たと浮氣? 5 (後書き)

次回で番外編1はしゅうついよう予定です。感想等お待ちしております。

皆さんには「ディオティアシム」「ティアファイナルファンタジー」を知つてますか？

とても面白いゲームです。この小説に登る、セフィロス、クラウド、スコールを始め、オニオンナイト、皇帝、ラグナ、ティファ、ライティングなど初代から3までのキャラがでてきます。

思いつきで宣伝してしまいましたが、本編にいきましょうか。

番外編1 僕と優ちゃんと浮気？終わり（予定）

土方 side

何？なんか唇に暖かい感触が…まさか、また、人のファーストキス
とったの？優ちゃんに謝らなくちゃ。

「ごめんね、優ちゃん。」

「こっちこそごめん。私なんかとキスなんかして嫌でしょ？」
まさか、そのリバースだよ。一応かの体内からでるリバースじゃないよ。

「個人的には嬉しいよ、でも秀吉にばれたら、大変なことになりそうだね。」
腕一本ぐらいたいそーだ。

「あのね、亮君。あたしはね貴方の事が好きなの。でもね、貴方に
は秀吉がいる。あたしは諦めるしかないのかな？」

これって告白？にしても、とても罪悪感が来るー。
というより、僕にアドバイスする権利ないよね。

「僕なら、振り向いてもらえるように努力するね。」

歌でもあるけど、恋も勝負も慌てない。これ、重要。

「今言つたこと忘れないでよね。」

まじで！なんか、タコより赤くなつてるね。とりあえず

僕は優ちゃんと唇を重ねる。

優ちゃんがとても驚いてる。

「帰ろつか、遅いと誤解されるしね。」

「うん。」

つて僕おかしいよね？彼女持ちが他の人とキスするとか。しかも彼
女より先に、彼氏から。

この後は何事もなく帰つた。

次はプールに入る予定です。
感想等くれると嬉しいです。
また、アドバイス等をしてくれるとありがたいです。

この後にバイトを抜いて、5巻に入ろうと思っています。

番外編2僕とプールと水着の楽園

土方 side

「おい、亮介もとい亮子。」

「これは秋子曰く、

「雄二かい？ いつたい何か用かい？」

「週末プールの貸し切りが出来るようになつた。」

「何があつたかは聞かないべきか。

「ただし、掃除を手伝つてもらいつ。」

「はい、謎解明！

「喜んでいくよ。秀吉とか、優ちゃんや秋子とか悦司とか呼んでいい？」

「悦司以外は大丈夫らしい。」

早！準備早！

「土曜日だぞ。」

楽しみー。

時間が経ちました。しばらくお待ちして下さい。待たなくていいですが。

土曜日

「おはよう、みんな。」

「雄二と霧島さん以外はそろつてる。

「雄二達は？」

「鍵を取りに行きましたよ。」

「秋子つて敬語だつたつけ？」

「急にどうしたの？ 秋子。」

「ちなみに優樹、和希、漱士郎、代表は来ていない。この人達は何処か出かけたらしい。」

「全員来たか、なら行くぞ。」

「しても着替えの様子を見たいなー。」

見たら殺される。やつぱつやぬよ」。

番外編2僕とペールと水着の楽園（後書き）

感想等を送ってくれるといつれしいです。

番外編2僕とプールと水着の楽園2（前書き）

お気に入り件数増えましたー。個人的にとっても嬉しいです。

土方 side

プールなどの着替えは圧倒的に男子が早い。退屈と思う人が多いと思うが、一人一人観察する事が出来る。体のラインとか、偽乳とかね。ちなみにムツツリー二はバストサイズまでわかるらしい。ベジータでもスカウター使ってもむりだつたのに。

「待たせたです。」

「誰だ？ 一番目は？ 小学生？ 島田と書いてるから… ブフオオ！」

「弁護士が欲しい。」

「口リ巨乳だと！ 憲役一年くらいか。」

「お前等、小学生相手に鼻血なんかだらしないぞ…」

「な、なんと！ 何故二人とも無事なんだ？」

「葉月ー、ソレを返しなさいー！」

「ああ、パツドか。まだ修行がたりないみたいだな。
次は誰かな？」

島田はスルー。下手すると痛い目にあつらしきしね。
霧島さんとヅラさん光臨！

「他の子を見ないようにね」 ×2
グサッ！

うわー、音グロッ！

「ぐういやあああああ、目があああああー！」

優樹達がいたら、笑いながら見てただろう。

「そういえば、ムツツリー二は？」

後ろを向くと、青鬼 じゃなくてムツツリー二が、昇天しそうになつてゐる。

「ムツツリー二ーーー！ まだ、秀吉達が来てないよ。」

キラアアアアン

「俺は死はない。こんな所で。」

番外編2僕とプールと水着の楽園2（後書き）

感想、要望等、お待ちしております。

番外編2僕とペールと水着の楽園3（前書き）

友達がオカマ + オカマ = 無限大とかいつてるんですが皆さんはどう思っています？

どうでもいいと思うので本編に行きましょう。

土方 side

きれいすぎる。あの一人を殴つてきていいかい？無償に腹がたつ
「にしても一人ともとても綺麗だよ、浴衣で色気攻めしたら、絶対
落ちるよ。」

「そういうつてくれると嬉しい。」 ×2

「二人とも、ちゃんと感想 w」

グシャアアアア

片目ずつ潰しやがった。

「ぐういいいいあああ！」

「闇の世界をさまようがいい。」 ×2

なにそれ？ガプラスさんの真似？

「視界を奪われたのに何を言えと？」 ×2

ムツツリーに一人の写真を予約し t

「ムツツリイイイイイイ。誰だ？犯人は？」

「すみませーん、後ろの紐 w」

ほどけちゃったよ。あのスイカのような大きさの奴が…
興奮してないかって？無論してない。僕、貧乳派。

じゃなくてどうしよう写真をどうしよう…

「あれ？優ちゃん、どつたの？」

何故か隠れてる。

「でてきなよ、優ちゃん。」

胸がはずかしいんだろうか？

「おかしいでしょ？」

上田遣いで聞いてくる。いやー、反則だよ。可愛さが。

「皆さん、すみません。」

そして、今来たのが秋子。あと来てないのは秀吉だけか。

番外編2僕とペールと水着の楽団3（後書き）

感想等おまかしてあります。

土方 side

「そういえば、なんで秋子は僕に対して敬語なの？」
強化合宿までは丁寧語あたりだったのに。

「あんなことまでしておいて、何を言つんですか？」
これってあれだよね。

ザツ！

「亮介、まさかお前が浮氣とは。」

悦司、それって嫌がらせ？

「そういえば、ムツツリーーからそんな写真が来たが本当だったとは。」

あいつ、処刑しよう。

「そういえば、今朝、面白い写真が届いたんだが。」

そういうて見せたのは、先週、優ちゃんと観覧車内でキスしてしまったシーン。

優ちゃんに助けを求めて、顔がモロ真っ赤になつて俯いている。

「ごめん、みんな、待つた？」

何故、このタイミングで、秀吉が。こうなつたら。

「雄一、すまない。」

バキツ！ ジャポン！

携帯を真つぶたつにへし折り、プールに沈める。

「ありがとう、亮介、助かつた。」

あれ？ 何故お礼？

「実は、翔子は一分間に一通ずつ、メールを送つてくる。学校の間だがな。これで怪しまれず破壊できた。」

それはストーカーより怖いよ。

「とりあえずみんな揃つたね。」

それじゃ、僕は優ちゃん達を見ながら過ごうそつかな。

土方 side

なんか、優ちゃん人と秀吉がピーチボールをやつてる。やたらと割れ
そうな勢いなんだけど。

「亮君、日焼け止め塗つてくれませんか？」
えーとつまり、日焼け止めを塗る＝いろんな所を触れる。＝エロい
どりじょう。答えは全力で

「イエス！ 喜んで。」

秋子は貧乳じやないけど、巨乳にも入らない、中間である。
「どういう風に塗ればいいの？」

「全身お願ひします。」

うほおおお、来たー！

とりあえず塗るつ。

「あ… はあ… ん… んはあ…」

エロすきじゃない？ 体が反応しそうなんだけど。

「ごめん、激しかった？」

「いえ、別に。気持ち良かつたですよ。前もします？」
ビキニの紐に手をかけながら聞いてくる。

「何やつてるの、亮君。」

優子と秀吉が来た。

「どうしたの？」

冗談抜きで不思議だな。

「なんかとてもピンク色の空気が漂つてきたんだけど。」

え？ あれ、聞こえてたの？

「日焼け止めを塗つてもらつてたんですけど、亮君が前みたいに触
つてくるんで、感じてしまつて。」

待つて！ それ何時？

「とりあえず、じつにこうつ秋子。」

「私、まだ子供は……」「違うよ、他のことじだよ。」
「やばい鼻血が……」

番外編2僕とプールと水着の楽園5（後書き）

15指定はしますが、とても危ない感じがします。苦手な方はすみませんでした。

といっても私はこういう事とは無縁なんですが。

番外編2僕とペールと水着の楽園6（前書き）

いやー、学校が終わると、解放された気分になつてしまつ作者です。

土方 side

「秋子、僕には、彼女がいるのは知ってるよね？」
とても驚いてる顔してる。ちよつと傷ついてしまうよ。

「これって浮気じゃ……」

頬を赤らめながら言う。

「冗談抜きで可愛い。」

「とりあえず、あの事は内緒でお願いします。」

バレたら大変になる。僕と秋子が……

移動中

「亮君、何処行つてたの？」

優ちゃんが少し怒つてゐる。

「少し怒つてる優ちゃん可愛いなー。」

一瞬で顔を赤らめた優ちゃん。

ガツツ！

「痛いっ！」

誰だ！ 膻蹴つたの。

「秀吉？ もしかして僕の膚を……」

いやー、でも秀吉の力ならこんなに痛いわけがない。

「亮君のバカツ！」

秀吉が向こうに行つた。

「秀吉！」

「これだから、前の明久もだが、お前もやばいな。」

「やばい？ 一体何が？」

「こういう奴を鈍感というんだよな？」

鈍感だと！

「普通なら秀吉の気持ちぐらい分かるだろ。」

秀吉の気持ち……確かに最近、秀吉の事考えてなかつたな。

「僕、謝つてくるよ。」

「しばらく後がいい。今、麻里に行つてもう少し待て。」

とてつもなく嫌な予感が…

番外編2僕とペールと水着の楽園6（後書き）

今回ちよつとシリアスでした。すみません。あんまり、こうこう話がないため、下手だと思います。すみません。
アドバイス等をくれると助かります。

今回短めです。

秀吉 side

亮君は私に愛想が尽きたのかな？嫌。亮君とは別れたくない。でも、どうしたらしいのかな？

「秀吉、大丈夫。土方はちゃんと貴方のこととを想つて居る。」
でも、どうやつて謝れば…

「土方はちゃんと気づいてる。そして謝りに来る。」
え？何で？

「じゃあ、私はその時に謝れば。」

麻里が横に首を振る。

「秀吉は謝らなくていい。」

じゃあ、何もしなくて…

「その代わりにキスとか、好きなことをすればいい。」
孔明になれるんじや？

「わ、分かった。やつてみる。」

そしたら、麻里が縦に頷く。

「がんばって。貴方ならできる。
励ましてくれるみたいだ。

みんなの所に戻らなくちゃ。

番外編2僕とプールと水着の楽園7（後書き）

今回でシリアルな部分とはしばらく会いたくないです。
感想等を待つてます。

番外編2僕とペールと水着の楽園∞（前書き）

10あたりで終わってほしいです。書いてる自分にいつても意味あります。

マクロスフロンティア恋離飛翼みました。木曜に発売されたやつを
ブルーレイで。興味ない方が多いと想いますが、いい作品でした。
本文早く入れ、クソ作者が！と言われる前に書こうと思います。で
はどうぞ。

番外編2僕とプールと水着の楽園⑧

秀吉 side

戻ってきたら、姫路が何か取り出している。

「姫路さん、それは？」

亮君が聞く。

「ワッフルです。三つしかないですが。」

「第一回！」雄一の声

「最速王者決定戦！」悦司の声

「ガチンコ水泳対決！」雄一と悦司。

「いえーーー！」ムツツリーニと僕の合ひの手

「亮君どうしたの？」

優ちゃん。君と過ごした先週は楽しかった。

「優ちゃん、ファーストキスありがとう。そしてあの日楽しかったよ。」

今之内に言えることは言つておく。

「秋子も合宿の時ありがとね。僕をあんなに信用してくれて。そしてファーストキスをくれて。」

残りは…

「秀吉、僕は君と共に人生を歩めて良かつたよ。」

よし、心残りは無い。

「僕は逝つてくるよ。」

二人は泣きそうだ。優ちゃんは理解してないけど。

「審判はボクがするね。」

「位置についてー。」

始まる。

「よーい。」

「ドン！」

生き残りを賭けた

戦いが。

「くたばれー！」

×3

みんな、これ競争だよ。

番外編2僕とペールと水着の楽園∞（後書き）

今回フラグ気味でした。次回で終わるといいなと思います。
土方「といって終わらないのは作者さんですけどね。」
感想待つてまーす。
土方「無視なの？」

土方 side

なんでもみんな、ボクをけりこくるの?
しかも、飛び込んだ後に。

「ムツツリー二までどうしたの?」

襲われる理由なんて…

「リア充には死を。」

彼女はいるけどリア充じゃない。

「雄二まで!」

あいつ、僕に向かつて蹴りを入れた後に踏み台にしてきた。

「俺は俺を不幸にさせた奴の代わりにお前を絶望の底へつき落としたいだけだ!」

それはハツ当たり?

「一の勝負、『霧島さーん、雄二が泳ぎながら秋子ガンミして』る。悦司も。」
「おい、やけんなああー!」
×2

あれはスタンガン。水中で使つたら

ビリビリビリビリ!

プールに電気が…

「ぐわああああああああ!」
×4 部外者の僕達まで痺れる羽目になつた。

だめだ…意識が。

あれ? 確か僕はプールに…後ろの柔らかいものは?
目を開けるか。

「秋子、僕は一体?」

ムツツリー二、雄二、悦司達もそれぞれ看病してもらつてゐる。

「亮君、大丈夫だつた?」×2

優ちゃんに秀吉が心配してくれる。あれ?何でみんな私服なの?

「じゃあ、一つ風呂寄つて帰るか。」

あ、夕日が見える。一時間は寝てたのかな?

あれ?僕も着替える。

「秋子、まさか、僕の着替えを...」

いや、まさか。

番外編2僕とペールと水着の楽園9（後書き）

次回で終わればいいと思つてます。
感想や、悪い点、遠慮無く送つてください。改善するよつこしたい
ので。

土方 side

秋子ひ裸を見られた。元は男といえ、今は女なんだ。恥ずかしいはず。

「うん。体が正直に反応してくれてとても嬉しかったですよ。」

嘘と書いて神様。

「一割嘘ですから気にしないでください。」

一割で安心する人いないと思う。

「秋子はなんで僕に対してそんな無警戒なの?」

いくらなんでも許しすぎだ。

「おい、亮介、浮気は後でな。」 ×3

「してないし。早く帰ろうよ。」

早くしないと面倒なことになる。

「亮君、ちょっと聞きたいことがあるんだけど……」

ひ、秀吉、田が怖い。左目に刻印が見える。

「亮君、あたしとちょっとお話しない?」

「殺したいほど妬ましい。」

なら、変わってくれ。

「…雄二、土方つて病氣?」

何で?

「え! 土方君つて病氣なの?」 ×2

驚いてくれるのはいいけど、

「精神的に病氣だな。明久みたいに。」

「僕がバカだといいたいのか…やばい、両腕の関節がああああああ…すみません。優子様、秀吉様。なんでも言つこと聞きますから。」

理由は分からぬけど、謝るのが一番だわ。

「ムツツリー、須川に明日通達、ハーレムやりうを殺りうと。」

「任せろ。」

いつして無茶苦茶な形でプールの貸し切りが終わった。

終わり方無茶苦茶ですみません。

次回から四巻に入りたいと思います。

第55問僕とキスと異端審問会（前書き）

バカテスト

世界史

カースト制度においてその身分を四つに大別した場合正しい名称を
答えなさい。

第55問 僕とキスと異端審問会

土方 side

いつもみたいな朝を迎えるはずだった。
でも起きたら違つてた。

優ちゃんが隣で寝てた。

？？？？

あれ？ 何で？

「亮君おはよ。」

「おはよう、優ちゃんあと、携帯取つて。」

何？ 優ちゃんの手元にあつただと！ それはともかく

「もしもし、警察ですか？ 不法進入です。」

「大丈夫ですか？ 起きたばかりで寝ぼけて見えたのじょう、あ、
びょう…」

ヤバい！

「すみません、間違いでした。」

「とりあえず、学校行こつか。」

「そうね。」

「ところでビツカッて入つたの？」

鍵閉めてたはず…

「お義母様がくれたのよ。」

突つ込まない、それより、何故母さんは鍵渡すんだよ…

「母さん、何故優ちゃんがいるのぞ！」

え？ 何？ この子分かつてないわみみたいな田は。

「亮君、遙を覚えてる？」

何故いきなり、姉さんを？

「いやー、優子ちゃんと秀吉ちゃんと囲まれたリア充な弟をみせた
いからよ。」

親もリア充とか言つんだ。

第55問 僕とキスと異端審問会（後書き）

これは俺と翔子と如月グランドパークのやりとりを主人公達でやつてみただけです。書くかもせんが念のために。感想待つてまーす。

第56問僕とキスと異端審問会2（前書き）

バカテスト

前回の答え

を…後書きに書きました。暇な人はみてください。

第56問 僕とキスと異端審問会2

土方 side

「秀吉を迎える」

「あいつはもう出でる時間よ。」

「時間ないんじゃ？」

「急がなきや！」

「やばい、僕はまだしも、優りやんが…」

「落ち着いて亮君、学校そじだよ。」

「あ、ほんとだー。」

「西村先生おはようございます。」

「西一先生、おはよー。」

鉄拳が…ぐわあああ

「木下はおはよー。土方は西村先生と呼べー！」

「えー、西村つて発音難しいのに。」

「そういえば、土方。」

何？何かしたつけ？

「彼女持ちがほかの女子と一緒に登校など。」

「やばいな、片腕は覚悟するか。」

「では、あたし達はこれで。」

早く教室に行こうかな。

教室内

「お久しぶり、みんな。」

秋子を除くメンバーが揃っている。

「なんだ、土方か。」

扱い酷くない。

「おはよう、亮君。」

秋子が来たみたいだ。

「おは……」

唇を奪われたのかな？柔らかい感触が…
あれ？意識が遠のいていく。

第5・6問 僕とキスと異端審問会2（後書き）

バカテスト

沖田漱士郎の答え

1 バラモン

2 クシヤトリア

3 ヴァイシャ

4 シュードラ

教師のコメント

正解です。

土方亮介の答え

1 浮氣

2 セクハラ

3 猥褻

4 ナンパ

教師のコメント

何が言いたいのですか？

下に行くほど起きてしまう可能性がたかくなるんでしょうか。

第57問 僕とキスと異端審問会③

土方 side

あれ？ 確か僕は…

横には雄二？ 悅司？ 漱士郎？

「あれ？ 僕はどうしたの？ どうしてこうなったの？」

手足縛られ、覆面集団に囮まれてゐる。

「罪人が起きたか。 ではリア充撃滅組織、 性犯罪者及び異端者の処刑を行う。」

この声って忠志？

「おい、 忠志、 はなせ。」

やつぱり。

「罪状を読みたまえ。」

「イエスマイロード！」

こいつらあれだな。

「土方亮介、 以下「コイツを誑」と呼ぶ。 誑しはわが校の双花の木下秀吉にレイプを強要し、 妊娠させようとしたり、 」

？ レイプなんかしてないよ。

「 さらに土屋氏の話では我ら希望秋ちゃんや神楽香奈、 以下「」のものを紅一葉と呼ぶ。 また、 山崎百合、 以下べつたぶるらあああ…」百合がはいつた瞬間に首に膝蹴りをぶちこんだ。

「助かったよ百合。」

危ない、 最近は先生に手を出しそうな男子生徒1位だったからね。 評判落とさず済んだ。

「べ、 別にあんたの為じやないんだからね…」

そりやそつか。

「被害者が出たから簡潔に述べよ。」

先生早く来て。

「とてもなくハーレムなのでめっちゃ羨ましいです。」

簡潔すぎだろ！てゆーか僕がハーレム？そんなわけない。周りに女子が多いだけだし。僕の方こそなりたいよ。

第57問 僕とキスと異端審問会③（後書き）

感想とか待つてまーす。

58 閃僕とキスと異端審問会。（前書き）

三作目書き始めました。タイトルは僕と妖怪と召喚獣です。詳しくは後書きにて。

58問僕とキスと異端審問会。

土方 side

今、僕は20人の男子からラリアットリレーを食らいそうになつて
る。理由は僕がハーレムらしいから。おかしそうで笑いが出るよ。
クラスの女子に引かれたことあるのに。

というより助けてー、誰かー。

「皆さーん、席に…」

着たー先生。後あれは?

「お前らー、席に着けー！」

お、今回は味方だ、わーい！

「先生、そちらの方は？」

鉄人が聞いてくる。確かに最後に会つたのは…

「吉井玲と申します。昨年ハーバード大学を卒業しました。ちなみに吉井明ひ…ではなくて吉井秋子さんの姉であります。」

確かに強化合宿前にあつた気が…

「吉井の姉さんがハーバード卒、両親は海外で仕事、何故お前だけ残念なんだ？」

へー、そういう家庭なんだ。

「おや、土方君お久しぶりですね。確かにきなり痴漢を…」

「冗談やめてくださいよ、玲さん！」

単なる会話してたような。

「冗談ですよ、四割。」

え？半分以上は何なの？

「まあ、がんばってください、土方、土屋、浜砂以外はまともですから。」

酷い！何故悦司とか、優樹とか和希は入つてないんだ？

「改めまして新しい教師吉井玲先生です。私の補助として働いてもらつてます。」

58 間僕とキスと異端審問会（後書き）

三作田はねり孫とバカテスの「ラボ物」です。一日一話はよきこので、三田に一話ぐらいになりそうです。

59 間僕とキスと新たな教師。（前書き）

とうあえず玲だしました。5巻の所はひじかたの姉を出す予定です。

59 問僕とキスと新たな教師。

土方 side

玲さんは姉さんの友達だから、知り合いである。秋子と知り合ったのは今年だけだ。

「土方亮介君と吉井秋子さんは授業の後私の元に来てください。」何もしてない、何もしていない。

授業後

「僕は何もしてませんよ。」

「私の妹の唇を奪つたと聞いてますが? やつぱ姉妹愛でもあるんじや?」

「子供の名前は考えていますか?」

さつき感動した僕がバカだつた。

「そういう関係じゃありません。」 ×2

僕は秀吉がいる。

「亮君には一応彼女がいるんだよ。」

ナイスフォロー。

「なるほど、浮氣ですか。するならプライベートでしてください。なぜ、僕が浮氣を? そんなこと一つも…あれ、心当たりがあるのは気のせいだ、きっと。」

「まあ、放課後お家に行きますので。」

玲さんがなぜ?

次の休み時間

「嫌な知らせがある。根本とかが戦争の準備をしている。」

「雄一め、きっと根本をこっちに送り主戦力を盗る気かな?」

「みんな、聞いてくれ、土方亮介は三人の美女とキスしてる…」

「なんだとー!」 ×モブ男子全員

「だから、俺達に協力して異端者に地獄を見せるぞー。」

「これって僕が一番酷い目に会いそう。」

60 間僕とキスと新たな戦争の予感。

土方 side

あれつて雄一だよね。何で敵に乗せられてるの？君等、本当に上位クラス？

「代表どうします？」

「そう、どうするか。」

「漱君、坂田君、高杉君、近藤君はわかつてるわよね？」

つまり男子で分からるのは僕と忠志だけ？

「姉御、教えてくだせー。」

チンピラみたいな言葉になってるぞ忠志。

「土方君を餌にして終戦協定を結ばせるのが一番損害が少なくて済むわね。」

それって男子全員にボロられろっていつてるよね？

「まったくもつてその通りだ。」 × 4

全力で肯定された。

「問題は、雄一だよね？」

秋子、完全に抜けてないんだね。

「明久なら分かるんじゃないかな？」

秀吉、口を合わせてね？

そんな、こんなみんないるのにキスなんて…

違うよ、口裏の事だから。

「そうだね、明久はよく一緒にだったしね。」

ナイス秀吉。

「おい、あまり虚めない方がいいと思うが…」

それって口説いてるの？ならば！

「もしもししぶらさ」「ヅラじゃない桂だ！」はいすみません、悦司が

浮「すぐ行くから待つてね 悅司。」だそうです。」

さあ、失意の広野をさまようが良い。これがプールの時の仕返しだ。

次は雄一だな。どうしようか？

60 間僕とキスと新たな戦争の予感。（後書き）

感想等送ってくれるといいです

6-1 閃僕とキスと戦争の予感。（前書き）

昨日は投稿できずすみません。気づいたら夜中でした。

6-1 問儀とキスと戦争の予感。

土方 side

「ぐわあああああ！」

悦司の迎えにきたようだ。

悦司、ヅラ退場！

「土方君、貴方生け贅決定ね。」

何故だ、僕は何もしていない。

何、そのみんなで僕は悪くないんだと思つてゐる自己中野郎がみたいな目は？

「貴重な戦力を削つたバカは生け贅なるしか役立たないだそうだ。」

分かりやすく説明してありつて待て漱土郎、それ、僕に対する文句？

「女子を使うのはどうなの？」

こっちの方が被害が？

「色じかけとは相変わらず趣味が悪いな亮介。」

優樹、相変わらずつて何？僕は英國級のジェントルマンだよー

「土方君、そういう人なの。」

代表まで！この絶対染めてるだろヒステリック！ぐはー！

何か鉄の物で殴られた。

「安心しろガンブレードで殴つただけだ。」

これで安心できる奴はいない。

「不満か。優樹、お前の太刀で斬つたらどうだ？」「なんか斬りそー…

「斬る訳ないだろ、この太刀で。」

助けてくれるの？片翼でもちゃんとした天使なんだ！

「こんな血がついたら汚れそうだ。忠志、サテライトビーム一つ。」「え？

「ぱっくげきー」「

あー、降つてきそう、でも天井があるからだいじょ…

意識がー。大丈夫。生きている。

6.1 間僕とキスと戦争の予感。（後書き）

忠志はラグナっぽい奴とでも思つててください。あと主人公は死んでません。

感想くれると嬉しいです。

6.3 騆機とキスと戦争と異端者（前編）

昨日は投稿しわすれていてすみません。

63 間僕とキスと戦争と異端者。

土方 side

あれ…川? あー、確かあれは…じーちゃん?
つて、戻ろう。目を開ければみんながいる…

「ウエルカムトゥー・ヘル」 × 45

えーと、日本語に直すと、地獄へようこそ。
つてやつぱ死んだのかな?

「雄二、ここは?」

残念そうに

「チツ、協定の時間か。」

協定つて? の前にみんなの代わりに覆面集団がいる。

「あれ? あなた達誰?」

鎌や鞭などをもつた奴等がいる。きっと処刑だらうな、朝やれなか
つたから。

「やめろ、雄二!」

聞き覚えのある懐かしい声だな。

「明久!」

「秋ちゃん!」 × 45

そこまでハモるときもい。

「その人は私の大切な人です。触れた瞬間、根本君並の酷い顔にな
りますよ?」

ねー、秋子、助けてくれるのは嬉しいけど、本人の前で言つたら…

「ふざけるな吉井!」

ヒュー、ヒステさんと付き合つたらヒステリッ 痛い痛い痛い! アイ
アンクローは無し!

「協定中だから見に来たらこんなに酷いとは思わなかつた。根本、
迷惑つて言葉知つてる?」

「うわー、来た瞬間愚痴りだしたよ。」

「友香、むか「気持ち悪い、しゃべるな、三つ指ナマケモノ。」
酷い、元彼を動物扱いしてやる。」

「できれば友香に迷惑かけて欲しくないんだけど。」

6.3 騆使とキスと戦争と異端者2（前編）

前みたいに一日一話は難しくなりました。勝手ですが、理解していく
ださい。

63 間僕とキスと戦争と異端者2

根本 side

あいつは…

あいつは俺から友香を奪い、名譽を奪った沖田じやないか。どんな手を使つても…

「友香はこの三つ指ナマケモノはどうしたい?」

何仲良さそうに話してゐるんだ。優香はあんな楽しそうじゃなかつたぞ!

「やつぱつ! ミハミハミ箱へを守りたいけど私一人で決める訳にはいけないしね。高杉君は?」

おれはもう動物以下なのか? 答えてくれ、友香ああああああ!

「代表の意見に賛成します。しかし大事なのは方法かと。」

くそ! これつて純粋なるいじめだる!

「なるほどー。」×50

なんで味方まで納得してゐるんだ!

「漱士郎、皇帝様呼ばないの?」

皇帝? そんなのいるのか?

「亮介、前置きを。」

あいつ、いつの間に!

「みんなで呼んでみよ、セーの。」

ろくな目に遭わない気がするな。

「てつじーーーん!」×50

why? 鉄人

「西村先生とよべええええ!」

どうする気だ? 道連れな訳あるわけないし。

「先生、根本が代表に痴漢をしたのをここにいる全員で見ました。」

「確かにしました。」×48

全員に裏切られた。

「根本、生徒指導室でまつきり聞かせてもらひつぞ。」

絶対復讐してやる！」

土方 side

まさか、根本君にあんな事出来るとは…

「坂本君、三つ指ナマケモノは処刑したわ。これにて戦争はおしまい、でいいかしら?」

「おお、これぞ和平交渉! 平和的だ。

「あとできれば、俺もそっちのクラスに入りたいんだが。駄目なら…」

「何あれ? 写真集? 誰のだろ?」

「そっちの代表の醜いときの写真と亮介の写真集だ。」

「いつ、そんなもの作つたんだよ!」

「分かつた、交渉に乗ろう。ならこちらからも条件を出す。」

漱土郎、僕を助けて… やっぱりともは大事だよ。

「お前は代表でなくなる。そして、お前の意思では戦争出来なくなる。それでもか?」

確かに…

「ああ、構わねえ。なんせ理由は未来を守るためにだつたしな。」

「すごーーい、スケール大きいな。」

「よつしゃー!」 × 2

悦司と雄一が騒ぎだす。どうした事やら。

「これで、呪縛から解放される! 仲間が側にいる。盾だつてある。これで俺達は変わるんだー!」 × 2

何故か一人の会話のスケール大きいよね。

「さて、代表何処潰す。やはり下から?」

優樹、全クラスの制圧かい?

「とりあえず、今回は元神童を獲得したからよしとしましょ。基本は攻めないし。」

「おー、平和だ、ヒステ…「ホン」「ホン、代表は。

土方 side

和平交渉にて集結した戦争の打ち上げとか祝いは何もなかつた。派手にお酒のみながら宴会とかしたかつたな。

「やうだ玲さんとか来るんだつた。急がないと。」

はー、だるい。

まあいいか、家入ろうかな。
ガチャ。鍵を開ける。

お茶あたりの準備しなきや……？

何故か玲さんと秋子に加え、秀吉と優ちゃんがいる。
回想しゅーりょー。

はい？ 何故いるの？ 鍵閉まつてたよね？

「亮君、なぜいるの？ 鍵閉まつてたよね？ みたいな顔しますよ。一字たりとも違つてない。

「まつたくもつてその通りです。」

「亮君、忘れたの？ あたしはこれ持つてるのよ。」

ジャラジャラならしながら見せる。うわー、僕の部屋以外の鍵もめつちやあるじやん。

「お姉ちゃん、なんで持つてるの？」

秀吉は知らなかつたのかい？

「まさか、亮君、浮気？」

秋子、頼む。田をそらしてることいわないで。

「そりいえば、そうでしたね。ですが、土方君と優子さんは婚約者と聞いてましたよ遙から。」

「姉さん？ つまり昔だらうか？」

「後、うちの親の会社社員ですよね、土方君のお父さんは？」

そういうえば…

「秋子とも婚約者になつていて…
あの人何がしたいんだ？」

土方 side

何したいんだ？あのクソオヤ…ゲフングエフン、父親は？人に結婚詐欺の疑いかけて何したいんだ？とりあえず確認を。

「もしもし、クソオヤジ！じゃなくて父さん、何僕に結婚詐欺の疑い掛けさせようとしてるんだよ！」

「何言ってるんだ、亮介、知らなかつたのか？あと、現代の子供は許嫁の一人か三人はいると聞いてるんだが？」

帰つてきたら、常識をたたき込もう。

「土方君、私に代わつてください。」

何する気だ、玲さん。

「私は吉井玲と申します。」

「これは玲ちゃん、久しぶりだね、いつたい何のよう？何、この態度の変わりっぷり。」

「彼女持ちな上に婚約者が一人。さすがにまずいかと。おー、ナイスフォロー。」

「わかつたよ、今度、また話しそう、亮介を連れてきて。」

何故僕？

「では、いずれ。」

あつ、切つた。聞きたいことあつたのに。

「で、どうなつたの？姉さん。しばらく検討するつもりです。秀吉とこの関係を維持できるかな？」

「これでしばらく安定ね。」

「そうですね、しばらく皆さん忘れていてください。」

「そうそう…しばらく？完全に忘れちゃダメなの？これで解決…なんて訳にはいかないよねー？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4939v/>

僕と親友と召喚獣

2011年11月21日12時13分発行